マニュアルの使いかた

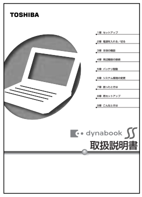
安心してお使いいただくために

●パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。



取扱説明書（本書）

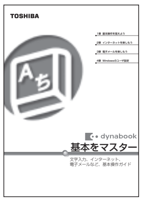
- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- モバイル活用法
- 周辺機器の接続
- 困ったときは
- 再セットアップ



参照 パソコン画面で見る『オンラインマニュアル』もあります。
本製品の電源を入れた状態でデスクトップの［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックするとご覧になれます。

基本をマスター

●特に初心者のかたへ
基本操作、文字入力、インターネットやメールの楽しみかたについて説明しています。



リリース情報

●本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックするとご覧になれます。

もくじ

3章　本体の機能　37

4章　周辺機器の接続　79

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Home

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版を示します。

Windows XP Pro

Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版を示します。

WindowsまたはWindows XP

Windows XP HomeまたはWindows XP Proを示します。

MS-IME　Microsoft® IMEスタンダード2002を示します。

大容量／中容量バッテリパック

大容量バッテリパックまたは中容量バッテリパックを示します。

無線LANモデル

無線LANの機能が内蔵されているモデルを示します。

コンパクトフラッシュモデル

コンパクトフラッシュカードスロットが内蔵されているモデルを示します。

Office搭載モデル

Microsoft® Office XP Personalがプレインストールされているモデルを示します。

記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書で使用しているdynabookのイラストは、無線LANモデルです。必要箇所のみ、コンパクトフラッシュモデルのイラストを使って説明しています。実際の仕様は購入したモデルによって異なります。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

・Microsoft、Windows、Outlook、Bookshelfは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』 第６版 © 研究社 1967,1994,1998、『新和英中辞典』 第４版 © 研究社 1933,1995,1998、『新明解国語辞典』 第５版 © 三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
・Intel、インテル、Pentium、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
・Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
・LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネット、ConfigFreeは（株）東芝の商標または登録商標です。
・駅前探険倶楽部は株式会社駅前探険倶楽部の登録商標です。
・ekitanExpress Onlineの商標は出願中です。
・Adobe、Adobeロゴ、Adobe AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
・駅すぱあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
・Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
・DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
・@niftyは、ニフティ株式会社の商標です。
・Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrinoモバイル・テクノロジについて

次の３つのテクノロジを搭載したパソコンをインテル Centrinoモバイル・テクノロジ搭載と呼びます。
・インテル Pentium-Mプロセッサ
・インテル 855チップセット ファミリ
・インテル PRO/Wirelessネットワーク・コネクション

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
・AC アダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
　目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温 5 ～ 35℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては本書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
・無線LANの使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。
・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書、『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。
本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について「1章 3-❶ 東芝へのユーザ登録」

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1章

セットアップ

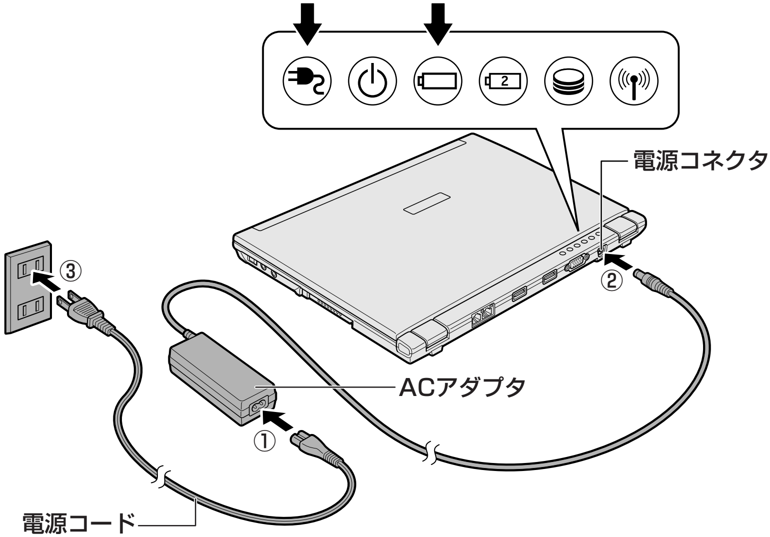
電源を入れて、パソコンを使えるようにするための
Windows のセットアップを行います。
また、ユーザ登録の方法についても説明しています。

1 パソコンの準備

ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

1 電源コードと AC アダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。
はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



インジケータ図は、パソコン本体正面から見た場合の並び順です。

接続すると、DC IN LED が緑色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

⚠ 警 告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず上記の順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

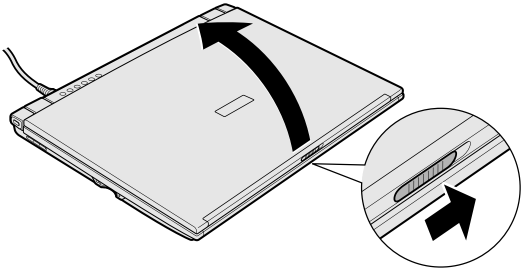
2 電源を入れる

お願い 内部液晶ディスプレイを開けるときは

パソコン本体背面にACアダプタ、外部ディスプレイのケーブル、USBケーブル、LANケーブル、モジュラーケーブルのいずれかを接続しているときに、内部液晶ディスプレイを180度近くまで開くとコネクタ部に力がかかり、ケーブルやパソコン本体の破損や故障の原因となります。コネクタ部に無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

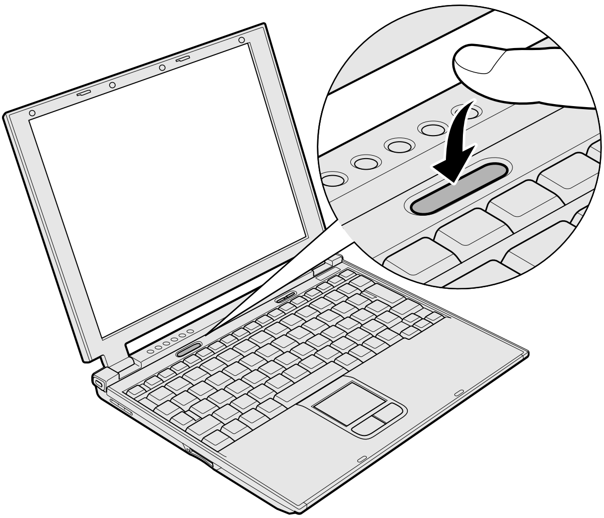
1 ディスプレイ開閉ラッチをスライドして、ディスプレイを開ける

両手を使ってゆっくり起こしてください。



2 電源スイッチを押す

Power ⏻ LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



2 Windowsのセットアップ

セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードやACアダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

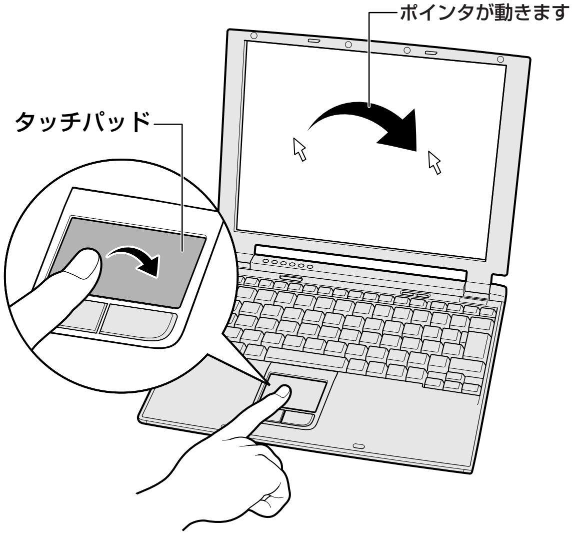
1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

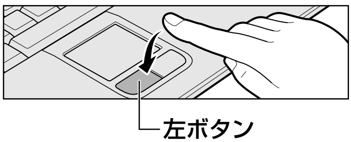
- 周辺機器は接続しないでください
  セットアップはACアダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください
  セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください
  セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう1度表示するには、Shiftキーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用するWindowsの管理番号を「Product Key」といいます。
  Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。

1 タッチパッドの使いかた

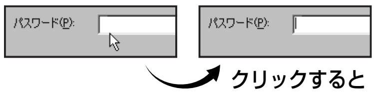
タッチパッドに指を置き、押さえながら上下左右に動かします。
指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。



目的の位置にポインタをあわせたあと、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。



 を文字入力欄にあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。「｜」の位置から入力できます。



2 Windows XPのセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、[Microsoft Windowsへようこそ]画面が表示されます。

本製品の音量調節はソフトウェアで行いますので、セットアップ中に流れる音楽は調節できません。セットアップ終了後、Windows起動時にキーボードでの調節が可能になります。

参照 音量の調節について「3章 5 サウンド機能」

1 操作方法

1 [次へ]ボタンをクリックする



画面右下の ? ボタンをクリックするかF1キーを押すと、Windowsセットアップのヘルプが表示されます。
[使用許諾契約]画面が表示されます。

2 **［使用許諾契約］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**



契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。
ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。
［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

3 **［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②**



ネットワークを使用する場合は必ず入力してください。
半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

Windows® XP Homeモデルの場合は、［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されます。手順7へ進んでください。
Windows® XP Proモデルの場合は、［管理者パスワードを設定してください］画面が表示されます。

4 ［管理者パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力する



Administratorと呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。
パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

［管理者パスワード］欄での入力後、Tabキーを押すと「｜」が［パスワードの確認入力］欄に移動します。「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

5 ［次へ］ボタンをクリックする



［このコンピュータをドメインに参加させますか？］画面が表示されます。
ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

6 **［いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません］が選択されていることを確認し①、［次へ］ボタンをクリックする②**



［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されます。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

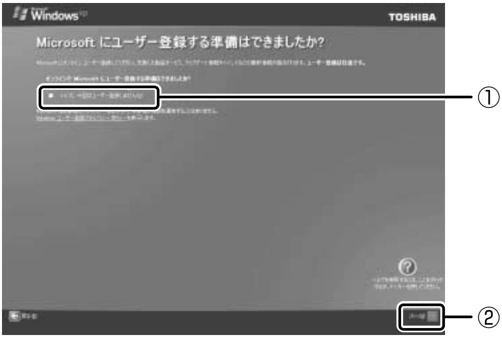
7 **［省略］ボタンをクリックする**

［インターネット接続が選択されませんでした］画面ではなく［インターネットに接続する方法を指定してください］画面が表示されることがあります。その場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。



［Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。
マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

8 ［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②



［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

9 ［ユーザー 1］欄に使う人の名前を入力する



［ユーザー 1］欄にポインタをあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。

参照 入力に使うキーの位置について「3 章 2 キーボード」

Windows XP では複数（5 人まで）のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- **ローマ字入力で入力する場合**
  「なかた」と入力するときは、キーボードでⓃⒶⓀⒶⓉⒶ(Enter)と押します。
  キーを押しても文字が表示されない場合は、［ユーザー］欄に「｜」（カーソル）が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、［ユーザー］欄をクリックしてください。
  文字の入力を間違えたら、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

10 ［次へ］ボタンをクリックする

［設定が完了しました］画面が表示されます。

11 ［完了］ボタンをクリックする



Windowsのセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  C ドライブ：NTFS システム
  本製品の内蔵ハードディスクには、再セットアップ用のデータが格納されています。したがって実際に使用できるハードディスクの容量（ユーザ領域）は、製品に搭載されている容量よりも少なくなります。
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

  参照 ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

お願い

Windowsの「ディスク管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

Windows XPの使いかた

Windows XPの使いかたについては、各システムに付属の『ファーストステップガイド』、または［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして『Windowsのヘルプ』を参照してください。

3 ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

本製品を使うにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録を推奨しています。
東芝パソコンをさらに便利に使うためのノウハウ、新商品やイベント情報の案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。
「登録はがき」で登録する場合、本製品に同梱されている「登録はがき」に必要事項を記入し、送付してください。
インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けて、インターネットに接続してから次の手順で行ってください。

1 東芝ホームページから登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。
http://dynabook.com/tpmc/userj/

2 「東芝 PC お客様登録」を使う

インターネットでユーザ登録をするための「東芝 PC お客様登録」を使用できます。
デスクトップの［東芝 PC お客様登録］アイコン（  ）をダブルクリックし、表示される画面に従って設定を行ってください。

【［インターネットプロバイダと未契約の方］を選択した場合 】

インターネットプロバイダ「infoPepper」への入会とパソコンのユーザ登録を 1 度に行うことができます。「infoPepper」への初期登録料と接続時間に応じた料金がかかりますので、あらかじめご了承ください。
「infoPepper」以外のプロバイダへの入会を希望する場合は、プロバイダに入会してパソコンの設定を行った後、［インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくは LAN 経由でインターネット接続されている方］を選択してください。

【［インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくは LAN 経由でインターネット接続されている方］を選択した場合 】

インターネットに接続してユーザ登録できます。

【［インターネット経由で登録を希望しない方］を選択した場合 】

はがきでユーザ登録するメッセージが表示されます。

2 その他のユーザ登録

1 マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、本製品に添付されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。
Windows XP の場合、インターネットで登録を行います。
インターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

1 ［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックする

［ヘルプとサポート センター］画面が表示されます。

2 画面左の［Windows XP の新機能］をクリックする

3 左画面の［ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録］をクリックする

4 右画面の［オンラインユーザー登録を使用する］をクリックする

5 右画面の説明文中の［ユーザー登録ウィザード］をクリックする

［Microsoft Windows XP ユーザー登録ウィザード］が起動します。

6 表示される画面の指示に従って登録を行う

ユーザー ID を持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の［マイクロソフト オフィシャルユーザー ID］欄に「WindowsXP」と入力してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

本製品に添付されている各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については「9 章 3-❸ アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windows のセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

参照 初めて電源を入れるとき「1 章 セットアップ」

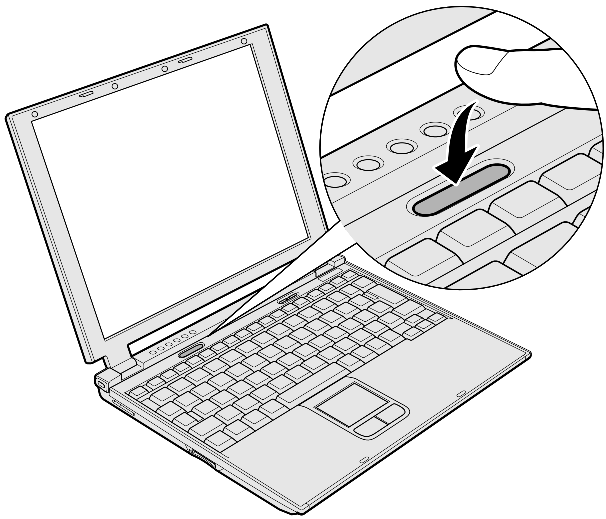
お願い **電源を入れる前に**

- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

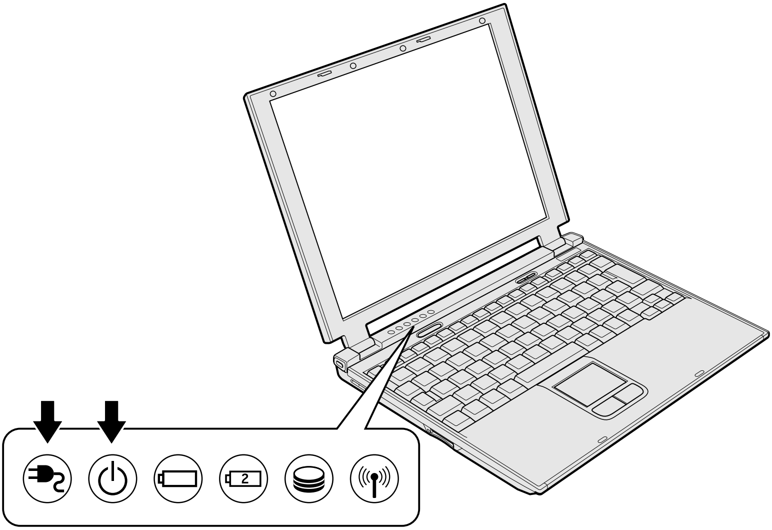
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 （AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常）
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

【 パスワードを設定している場合 】

パスワードを設定している場合は、電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

メモ

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照 パスワードについて「6章4 パスワードセキュリティ」

【 メッセージが表示される場合 】

不明なメッセージについては、「7章 2- メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

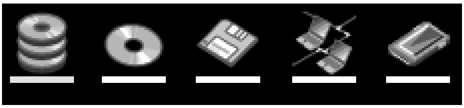
ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【 一時的に変更する 】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 F12キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。



アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ→ FDD →ネットワーク→ PC カード

2 →または←キーで起動したいドライブを選択し、Enterキーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【 あらかじめ設定しておく 】

「東芝HW セットアップ」の［OS の起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6章2 東芝HW セットアップを使う」

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 スタンバイ、休止状態
「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED や SD Card LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

1 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②



2 ［電源を切る］をクリックする



Windows XP Pro モデルでドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし①、[シャットダウン］を選択し②、[OK］ボタンをクリックしてください。



Windows が終了し、電源が切れます。Power LED が消灯します。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い **操作にあたって**

- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押して、いったん電源を切った後、もう1度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②



2 ［スタンバイ］をクリックする



Windows XP Pro モデルでドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［スタンバイ］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。
メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power ⏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

Fn＋F3キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効な場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［東芝省電力］をクリックする

③ ［休止状態］タブで［休止状態をサポートする］をチェックする

④ ［OK］ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②



3 (Shift)キーを押したまま［休止状態］をクリックする

(Shift)キーを押している間は、［スタンバイ］が［休止状態］に変わります。



Windows XP Pro モデルでドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で  ボタンをクリックし、［休止状態］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。

Disk ⛁ LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

(Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節❷-1 手順 1」を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

購入時には［電源オフ］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする
② ［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
③ ［電源設定］タブで設定する省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
④ ［動作］タブの［電源ボタンを押したとき］で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
［何もしない］を選択すると、電源スイッチを押しても何も動作しません。
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
⑥ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の④で［入力を求める］を選択したときは、［Windows のシャットダウン］画面または［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には［休止状態］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

② ［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

③ ［電源設定］タブで設定する省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする

④ ［動作］タブの［コンピュータを閉じたとき］で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
［何もしない］を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

⑤ ［OK］ボタンをクリックする

⑥ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の④で［スタンバイ］または［休止状態］を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

3章

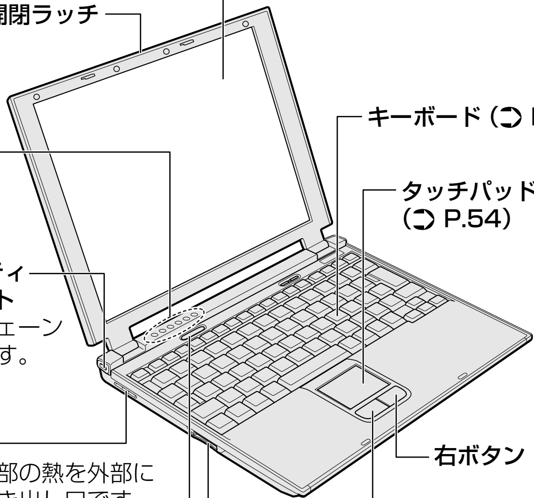
本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作など役に立つ機能も紹介。
各部の手入れについても確認してください。

1　各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1　前面図



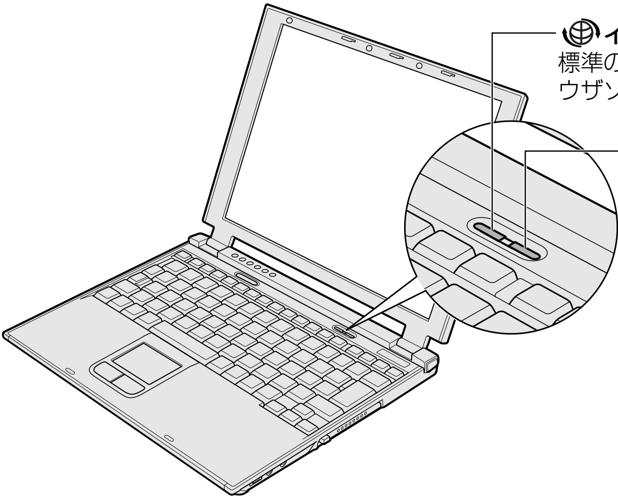
メモ

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

【 システムインジケータ 】

(DC IN)	DC IN LED	電源コードの接続 参照 P.27
(Power)	Power LED	電源の状態 参照 P.27
(Battery)	Battery LED	バッテリの状態 参照 P.101
(2)	大容量／中容量 バッテリ LED	大容量／中容量バッテリの状態 参照 P.101
(Disk)	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
(Wireless)	ワイヤレス コミュニケーションLED	無線 LAN 通信の状態 参照 P.68

【 ワンタッチボタン 】



インターネットボタン
標準のインターネットブラウザソフトが起動します。

メールボタン
標準のメールソフトが起動します。

メモ

インターネットボタンとメールボタンの設定は、［コントロールパネル］→［プリンタとその他のハードウェア］の［東芝コントロール］で変更できます。

2 背面図

【 無線 LAN モデルの場合 】

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ（ P.68）

ヘッドホン出力端子

ヘッドホンを接続します。音源はステレオで出力されます。
ステレオミニジャックタイプ（3.5φ）を使用してください。

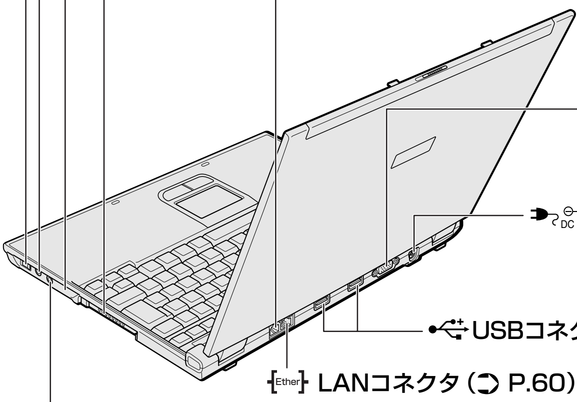
赤外線ポート

IrDA方式の赤外線ポートを持つ他の機器と通信ができます。
同じ通信用アプリケーションを使用してください。

PCカードスロット（ P.81）

モジュラージャック（ P.74）

モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。



RGBコネクタ（ P.93）

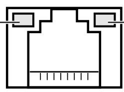
外部ディスプレイを
接続します。

電源コネクタ

USBコネクタ（ P.91）

LANコネクタ（ P.60）

LANアクティブLED（橙）
データを送受信している
ときに点灯します。

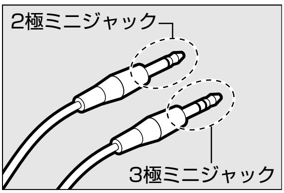


リンクLED（緑）
ネットワークに正常に接
続され、使用可能なとき
に点灯します。

マイク入力端子

マイクロホンを接続します。

・モノラルマイクのみ使用できます。
・プラグは3.5mmφ3極ミニジャック
　タイプが使用できます。
　3.5mmφ2極ミニジャックタイプでもマイクロ
　ホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を
　必要としないマイクロホンであれば使用できます。



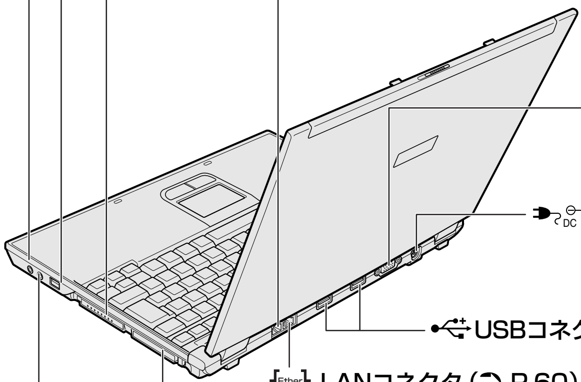
【 コンパクトフラッシュモデルの場合 】

ヘッドホン出力端子
ヘッドホンを接続します。音源はステレオで出力されます。
ステレオミニジャックタイプ（3.5φ）を使用してください。

USBコネクタ（➲ P.91）

PCカードスロット（➲ P.81）

モジュラージャック（➲ P.74）
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。



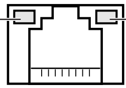
RGBコネクタ（➲ P.93）
外部ディスプレイを
接続します。

電源コネクタ

USBコネクタ（➲ P.91）

LANコネクタ（➲ P.60）

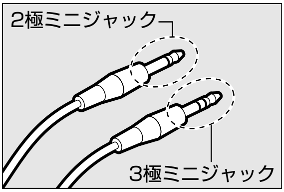
LANアクティブLED（橙）
データを送受信している
ときに点灯します。



リンクLED（緑）
ネットワークに正常に接
続され、使用可能なとき
に点灯します。

コンパクトフラッシュカードスロット（➲ P.89）

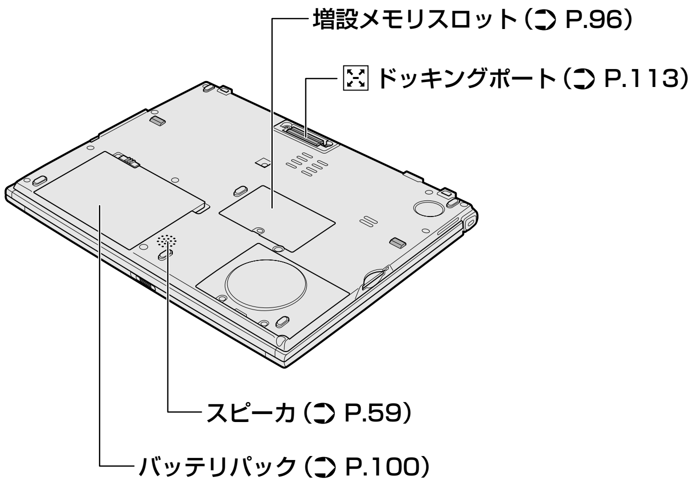
マイク入力端子
マイクロホンを接続します。
・モノラルマイクのみ使用できます。
・プラグは3.5mmφ3極ミニジャック
　タイプが使用できます。
　3.5mmφ2極ミニジャックタイプでもマイクロ
　ホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を
　必要としないマイクロホンであれば使用できます。



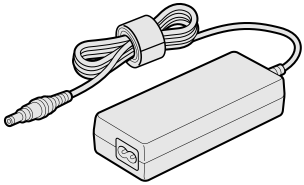
メモ

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

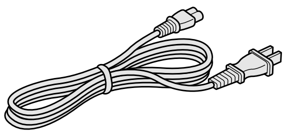
3 裏面図



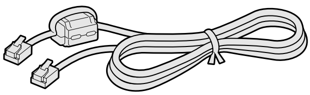
4 付属品



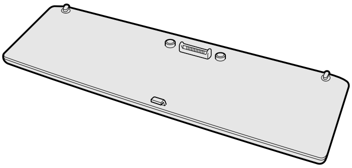
ACアダプタ



電源コード



モジュラーケーブル



中容量バッテリ

5 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
  電源を切って AC アダプタを取りはずした後に、すべての LED が消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- PC カード、SD メモリカード、コンパクトフラッシュカード（コンパクトフラッシュモデルのみ）などがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。

⚠注 意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

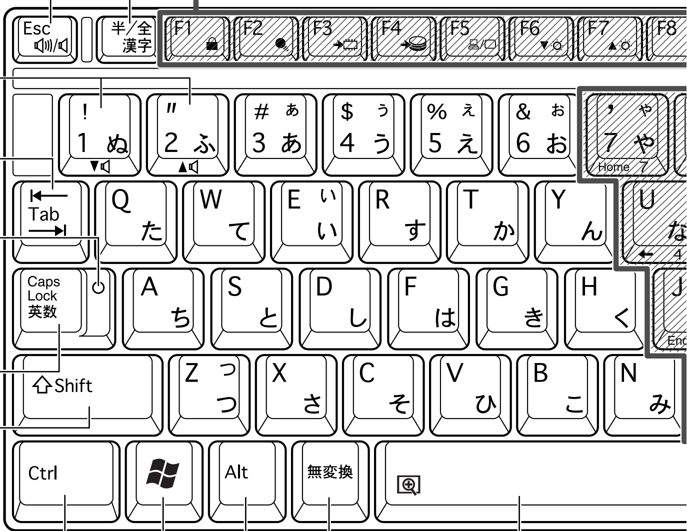
パソコン本体／電源コードの取り扱いと手入れ

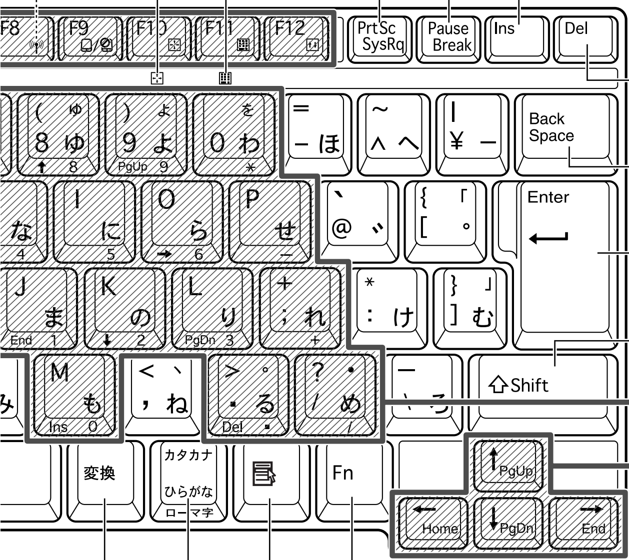
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
  ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
  温度5～35℃、湿度20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

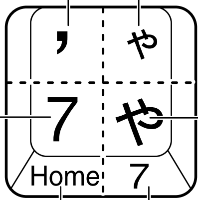




＊1　本製品ではサポートしておりません。

【 文字キー 】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。



■ 左上
(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■ 右上
かな入力ができる状態で(Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。

■ 左下
他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。
大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。

■ 右下
かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

■ 前面左
アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。

■ 前面右
数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

参照 アロー状態、数字ロック状態
「本節 ❷-(Fn)キーを使った特殊機能キー」

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

2 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
Fn＋Esc 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度Fn＋Escキーを押します。
Fn＋1 〈スピーカの音量を下げる〉	Fnキーを押したまま、1キーを押すたびに音量が1段階ずつ下がります。 表示される画面のアイコンで音量を確認できます。
Fn＋2 〈スピーカの音量を上げる〉	Fnキーを押したまま、2キーを押すたびに音量が1段階ずつ上がります。 表示される画面のアイコンで音量を確認できます。
Fn＋Space 〈内部液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	Fnキーを押したまま、Spaceキーを押すたびに内部液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
Fn＋F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定（［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで、［パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。

キー	内容
Fn+F2 〈省電力モードの設定〉	Fn+F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
Fn+F3 〈スタンバイ機能の実行〉	Fn+F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます＊1。
Fn+F4 〈休止状態の実行〉	Fn+F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます＊1。
Fn+F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 6 外部ディスプレイを接続する」
Fn+F6 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます＊2。
Fn+F7 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます＊2。
Fn+F9 〈タッチパッドオン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度Fn+F9キーを押します。 参照「本章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」
Fn+F10 〈オーバレイ機能：アロー状態〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度Fn+F10キーを押します。
Fn+F11 〈オーバレイ機能：数字ロック状態〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度Fn+F11キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excelなど）によっては機能が異なる場合があります。
Fn+F12 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度Fn+F12キーを押します。

キー	内容
Fn＋↑ 〈PgUp（ページアップ）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
Fn＋↓ 〈PgDn（ページダウン）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
Fn＋← 〈Home（ホーム）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn＋→ 〈End（エンド）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

＊1　表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

＊2　液晶ディスプレイの点灯直後は、約18秒間、輝度の変更はできません。その間、液晶ディスプレイの点灯を安定させるため、自動的に最高輝度となります。

【 Windowsキーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
Windows＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
Windows＋M	すべての画面を最小化する
Shift＋Windows＋M	Windows＋Mキーで最小化した画面を元に戻す
Windows＋F1	『Windowsのヘルプ』を起動する
Windows＋E	［マイコンピュータ］画面を表示する
Windows＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl＋Windows＋F	他のコンピュータを検索する
Windows＋Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
Windows＋Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
カナロック状態	Ctrl + Caps Lock 英数	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます*。
大文字ロック状態	Shift + Caps Lock 英数	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます*。 大文字ロック状態のときは、Caps Lock 英数キーの Caps Lock LED が点灯します。
タスクマネージャの起動	Ctrl + Alt + Del	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PrtSc	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt + PrtSc	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

＊ カナロック状態や大文字ロック状態を解除するには、もう 1 度同じキー操作をします。
ロック状態の優先度は、カナロック状態＞大文字ロック状態です。

3 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS- IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。半/全キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。



入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力はAlt＋カタカナひらがなキーを押すと切り替えられます。
この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。
常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

① ツールバーの［プロパティ］アイコン（ ）をクリックする
② ［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

漢字変換

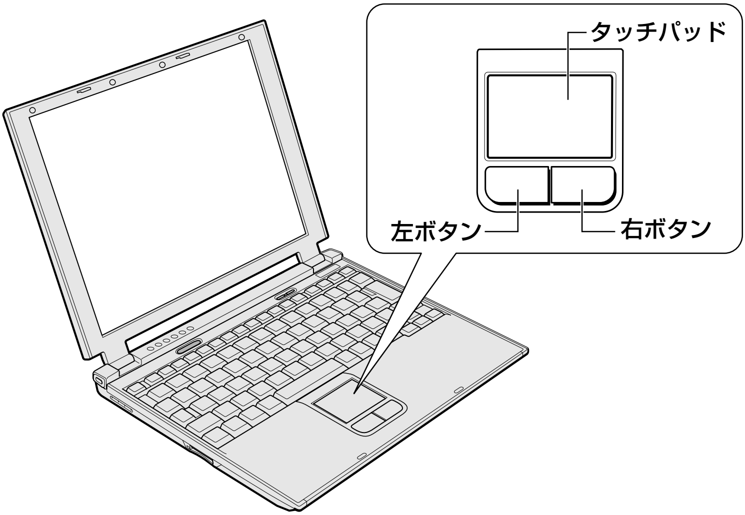
入力した文字を漢字変換するには、Spaceキーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度Spaceキーを押して、他の漢字を表示します。
さらにSpaceキーを押すと、候補の一覧が表示されます。
↑↓キーで選択し、Enterキーを押します。

メモ

MS-IME の使いかたについてはツールバーの［ヘルプ］アイコン（ ）から『MS-IME のオンラインヘルプ』をご覧ください。

3 タッチパッド

電源を入れてWindows を起動すると画面上に  （ポインタ）が表示されます。
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使って、ポインタを操作します。



お願い

タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

クリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンまたは右ボタンを1 回押します。
ダブルクリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンをすばやく2 回続けて押します。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを押したまま、タッチパッドでポインタを移動します（ドラッグ）。 ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します（ドロップ）。

1 タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは［マウスのプロパティ］で設定を変更できます。

2 タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【 方法1ー Fn+F9キーを押す 】

1 Fn+F9キーを押す

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。
解除するには、もう1度Fn+F9キーを押します。

Fn+F9キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

【 方法 2ー マウスのプロパティで設定する 】

1 **タスクバーの［Touch Pad］アイコン（ ）をダブルクリックする**

［マウスのプロパティ］は、［コントロールパネル］の［マウス］からも表示できます。

2 **［タッチパッド ON/OFF］タブで、［有効］または［無効］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする**

［有効］をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、［無効］をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。



ヘルプの起動方法

1 **［マウスのプロパティ］画面を表示し、画面右上の ? をクリックする**

ポインタが に変わります。

2 **画面上の知りたい場所をクリックする**

説明文がポップアップで表示されます。

4 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「4章6 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048×1536ドット	1,677万色
1920×1440ドット	
1600×1200ドット	
1400×1050ドット	
1280×1024ドット	
1024×768ドット	
800×600ドット	

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［画面解像度を変更する］をクリックする

3 ［設定］タブの［画面の解像度］で、解像度を変更し、［OK］ボタンをクリックする



メモ

Fn＋Spaceキーを押して、解像度を切り替えることもできます。

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。消耗品となります。

5 サウンド機能

本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。
標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、キーボードまたは Windows の「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 キーボードで調整する

【 音量を下げる 】

1 Fn キーを押したまま、1 キーを押す

1 キーを押すたびに、音量が 1 段階ずつ下がります。

【 音量を上げる 】

1 Fn キーを押したまま、2 キーを押す

2 キーを押すたびに、音量が 1 段階ずつ上がります。

【 ミュート（消音）】

1 Fn キーを押したまま、Esc キーを押す

スピーカのミュート／ミュート解除が切り替わります。

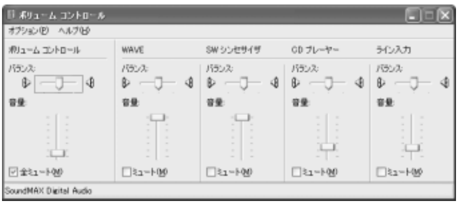
2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

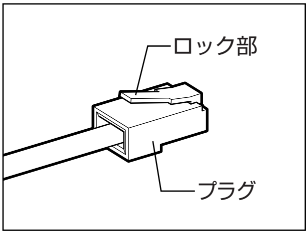


詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

6 LAN機能

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。
LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windowsのヘルプ』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

＊無線LANモデルのみ

無線LANモデルには、無線LANが内蔵されています。
無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線LANの概要

無線LANモデルでは、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
  11、5.5、2、1Mbpsの転送レートから選択可能です。

- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11規格で規定されているRC4暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【 無線LANの種類 】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fiロゴは、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認証マークです。

【 セキュリティ 】

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

参照 WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信のレンジを最大限にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録 2-6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線 LAN ネットワークには、次のような機能があります。

- 無線 LAN ステーション同士を直接ワイヤレス接続する

参照 「本項 - ピア·ツー·ピアワークグループ」

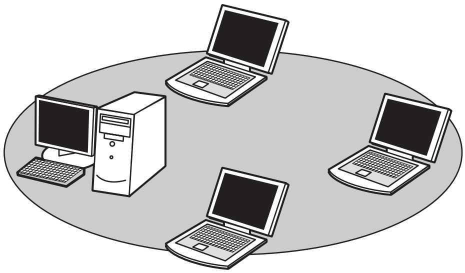
- 無線 LAN アクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線 LAN ステーションに接続する

参照 「本項 - インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア·ツー·ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような［ファイルとプリンタの共有］などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア·ツー·ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

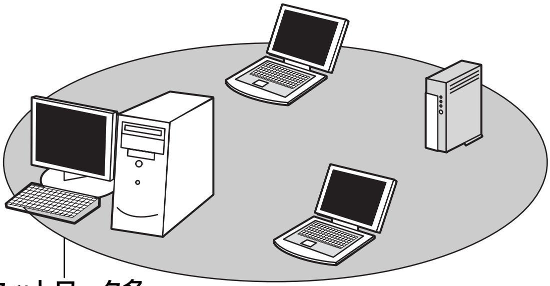
参照 ピア·ツー·ピアワークグループの設定について「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

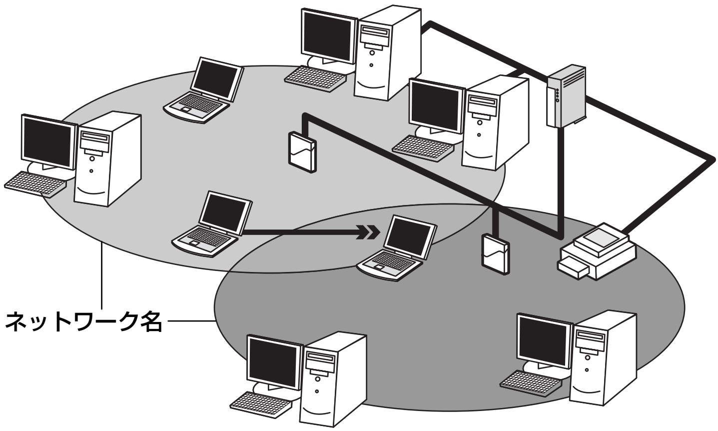
【 スタンドアロンネットワーク 】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【 インフラストラクチャネットワーク 】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。
Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリック→［ネットワークタスク］の［ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する］をクリックする

［ネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。画面に従って操作してください。



4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面で行います。

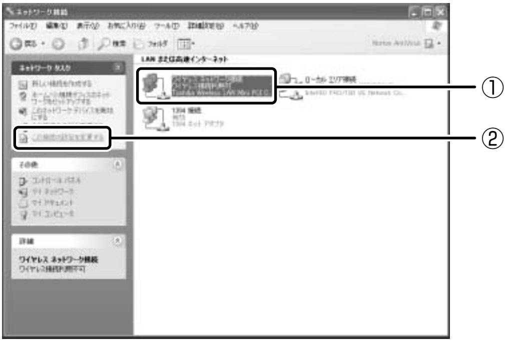
プロパティ画面の表示

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする

2 ［ネットワークタスク］の［ネットワーク接続を表示する］をクリックする

［ネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワーク接続］を選択し①、［ネットワークタスク］の［この接続の設定を変更する］をクリックする②



［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面が表示されます。



設定を変更したあと、［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP（Wired Equivalent Privacy）とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 ［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面を開く

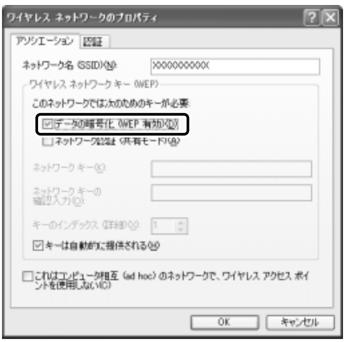
参照 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 ［ワイヤレスネットワーク］タブの［利用できるネットワーク］でネットワーク名をクリックし①、［構成］ボタンをクリックする②



［ワイヤレスネットワークのプロパティ］画面が表示されます。

3 ［データの暗号化（WEP 有効）］をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
  ［キーは自動的に提供される］がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
  ① ［キーは自動的に提供される］のチェックをはずす
  ② ［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高（128ビット）	13文字	26文字
低（64ビット）	5文字	10文字

ネットワークキーは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

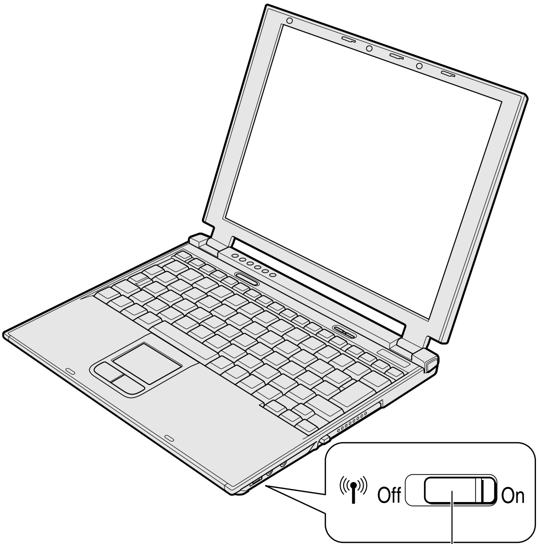
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

⚠ 警 告

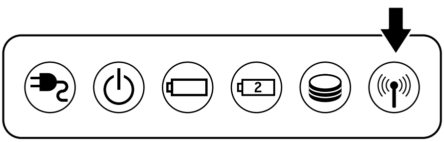
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 パソコン本体のワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーションスイッチ
無線LANの機能を使用するかしないかを切り替えます。
使用するときは右側（On）に、使用しないときは
左側（Off）に切り替えてください。

ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯し、無線 LAN が起動します。



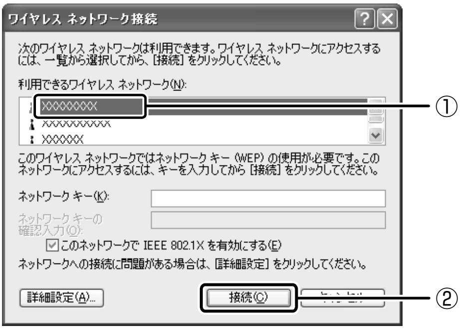
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。
利用できるネットワークが検出された場合、タスクバーにメッセージが表示されます。

2 **［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする**

［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

3 **［利用できるネットワーク］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②**

WEP機能を設定しているネットワークに接続するときは［ネットワークキー］にネットワークキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。



接続できると、タスクバーに［ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました］とメッセージが表示されます。

4 **［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする**

5 **［ネットワークタスク］の［ワークグループのコンピュータを表示する］をクリックする**

無線LANでつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

メモ

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

3章 本体の機能

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『Windows のヘルプ』を参照してください。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。
無線 LAN モデルでは、無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名（SSID）により自動でプロファイルを切り替える機能を使って、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。
また、LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動するとタスクバーにアイコン（  ）が表示されています。
「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA ConfigFree］→［ConfigFree］をクリックする

［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面が表示されます。
［タスクトレイに常駐する］をチェックすると、タスクバーにアイコン（  ）が表示されます。

「ConfigFree」を初めて起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、［次回から表示しない］をチェックし、［閉じる］ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

1 タスクバーの［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから［ネットワーク診断］をクリックする

［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面が表示されます。

【［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面 】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタを合わせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

1 タスクバーの［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから有効／無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【 その他のデバイス設定 】

［ConfigFree］アイコン（ ）→［デバイス］→［開く］をクリックすると、［ConfigFree（デバイス設定)］画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● 自動切り替え（ケーブル切断）（無線 LAN モデルのみ）

 ［ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます。］をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

● ネットワーク接続

 ［ネットワーク接続］ボタンをクリックすると［ネットワーク接続］画面が表示され、ネットワーク接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 タスクバーの［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

メニューが表示されます。

［プロファイル］の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【 その他のプロファイル設定 】

［ConfigFree］アイコン（ ）→［プロファイル］→［開く］をクリックすると、［ConfigFree（プロファイル設定)］画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

 ［追加］ボタンをクリックすると、プロファイル作成の説明画面が表示されるので、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。［プロファイルの追加］画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

 プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、［削除］ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

- 自動切り替え（SSID）
  ［自動切り替え］ボタンをクリックすると、［自動切り替え］画面が表示されます。［自動切り替え（SSID）］タブで［自動切り替え（SSID）］をチェックしてください。接続した無線LANネットワーク（SSID）の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線LAN機能を内蔵したプロジェクタ（TOSHIBA液晶データプロジェクタ：TLP-T720J／TLP-T721J。2003年6月現在）との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

終了方法

1 タスクバーの［ConfigFree］アイコン（）を右クリックし、表示されたメニューから［終了］をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「ConfigFree」を起動後、表示された画面の［ヘルプ］ボタンをクリックする

［ConfigFreeヘルプ］画面が表示されます。

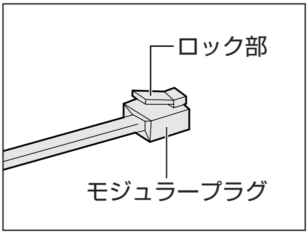
ファーストユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA ConfigFree］→［ファーストユーザーズガイド］をクリックする

［ConfigFreeファーストユーザーズガイド］画面が表示されます。

7 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを 2 線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。



モジュラーケーブルを差し込むまたははずすときは、モジュラープラグを持って行い、ケーブルは引っ張らないでください。また、はずすときは、モジュラープラグのロック部を押さえながら抜きます。

お願い **内蔵モデムの操作にあたって**

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2003年6月現在）

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

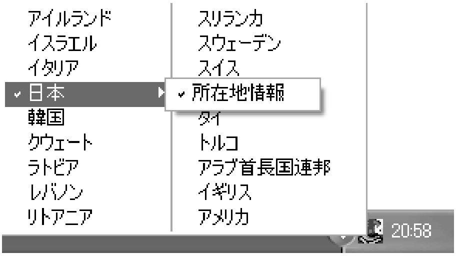
1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Toshiba Internal Modem］→［Region Select Utility］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。



2 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

［地域名を選択した場合］

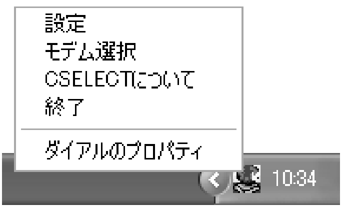
［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

1 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【 設定 】
チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】
COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイアルのプロパティ 】
［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

4章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられる周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器について

周辺機器を使って、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い **取り付け／取りはずしにあたって**

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。
取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

2 PCカードを使う

本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

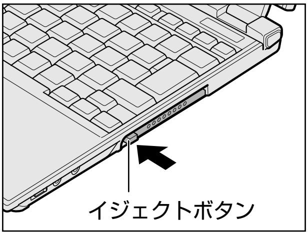
お願い

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

1 取り付け

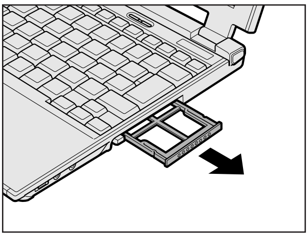
1 ケーブルの接続が必要なときは、PCカードにケーブルを付ける

2 PCカードスロットのイジェクトボタンを2回押す



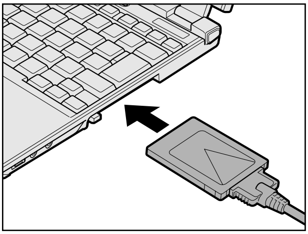
1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度カチッと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

3 ダミーカードを抜く



ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、またはPC カードが壊れることがあります。

参照 カードの接続および環境の設定方法『PC カードに付属の説明書』

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

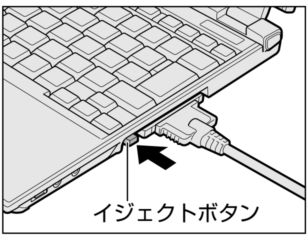
1 PC カードの使用を停止する

① タスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを 2 回押す



1 回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう 1 度カチッと音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

熱くないことを確認してから行ってください。
カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。

4 ダミーカードを挿入する

お願い

PC カードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。
ほこりやゴミなどが PC カードスロットに入り、故障するおそれがあります。

3 SD メモリカードを使う

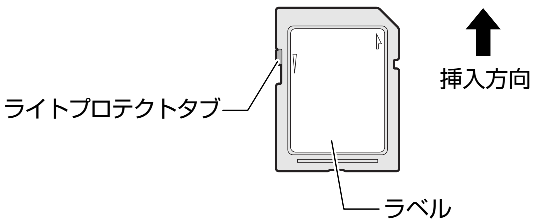
SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで使用できます。
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

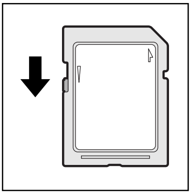
お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SDメモリカードについて

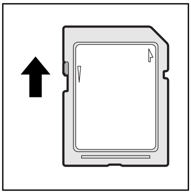
SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。





書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

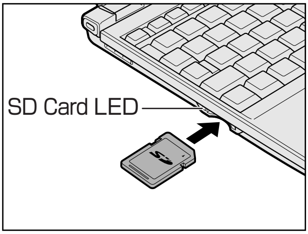
ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 セット

お願い

- SD Card LEDが点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
  データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 SDメモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SDメモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

SDメモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。

3 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

① タスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SD メモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（［マイコンピュータ］画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

お願い

「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 **SDメモリカードをセットする**

2 **[スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝SDカードユーティリティー] → [東芝SDメモリカードフォーマット] をクリックする**

3 **[ドライブ] で、SDメモリカードのドライブを選択し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する**



- 簡易フォーマット
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
  SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 **[スタート] ボタンをクリックする**

メッセージが表示されます。

5 **メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 **メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**

SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
  ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

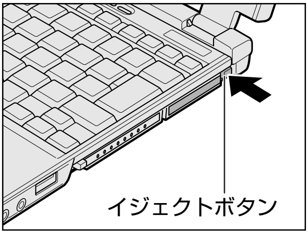
4 コンパクトフラッシュカードを使う

＊コンパクトフラッシュモデルのみ

コンパクトフラッシュカードスロットに、CFA（Compact Flash Association）準拠のTYPE Ⅰ／Ⅱ対応コンパクトフラッシュカードを取り付けて使用できます。詳しい使いかたなどについては『コンパクトフラッシュカードに付属の説明書』をご覧ください。

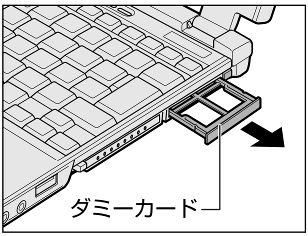
1 セット

1 コンパクトフラッシュカードスロットのイジェクトボタンを2回押す



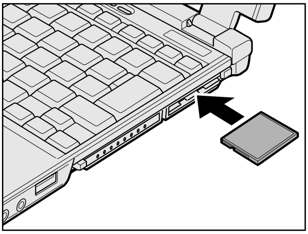
1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度カチッと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

2 ダミーカードを抜く



ダミーカードはなくさないように保管してください。

3 コンパクトフラッシュカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、コンパクトフラッシュカードを使用できない、またはコンパクトフラッシュカードが壊れることがあります。

2 取り出し

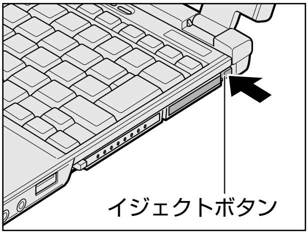
1 コンパクトフラッシュカードの使用を停止する

① タスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすコンパクトフラッシュカード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 コンパクトフラッシュカードスロットのイジェクトボタンを２回押す



１回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう１度カチッと音がするまで押してください。コンパクトフラッシュカードが少し出てきます。

3 コンパクトフラッシュカードをしっかりとつかみ、抜く

4 ダミーカードを挿入する

お願い

コンパクトフラッシュカードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。
ほこりやゴミなどがコンパクトフラッシュカードスロットに入り、故障するおそれがあります。

5 USB対応機器を接続する

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
パソコン本体背面のUSBコネクタに接続して使用できます。
コンパクトフラッシュモデルのみ、パソコン本体右側面にもUSBコネクタがあります。

お願い　操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは､USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

① タスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす USB 対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

6 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。
パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 内部液晶ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 外部ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

【 方法 1ー 画面のプロパティで設定する 】

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

2 ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

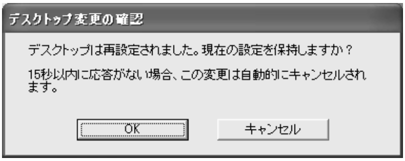
3 ［Intel(R) Extreme Graphics］タブで［グラフィックのプロパティ］ボタンをクリックする

4 ［デバイス］タブで表示する装置と形式を選択する

- 内部液晶ディスプレイだけに表示
  ［ノートブック］アイコンをクリック
- 外部ディスプレイだけに表示
  ［PC モニタ］アイコンをクリック
- Clone 表示
  内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイのそれぞれにデスクトップ画面を表示します。
  ①［Intel(R) Dual Display Clone］アイコンをクリック
  ②［プライマリデバイス］に［ノートブック］、［セカンダリデバイス］に［PC モニタ］と表示されていることを確認する

● 拡張表示
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイを 1 つの大きなデスクトップ画面として使用できます。
① [拡張デスクトップ] アイコンをクリック
② [プライマリデバイス] に [ノートブック]、[セカンダリデバイス] に [PC モニタ] と表示されていることを確認する

5 **[OK] ボタンをクリックする**
次の画面が表示されます。



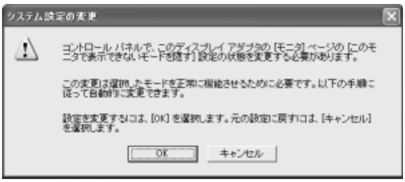
6 **[OK] ボタンをクリックする**

7 **[OK] ボタンをクリックする**

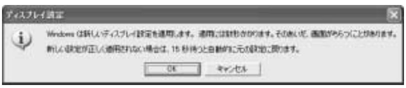
8 **[画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする**

【 メッセージについて 】
設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【 方法 2ー (Fn)+(F5)キーを使う 】

(Fn)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーを離すと表示装置が切り替わります。
現在の表示装置がLCD（内部液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、(Fn)+(F5)キーを3秒以上押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に(Fn)+(F5)キーを押したときのみ有効です。



- LCD .... 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT .... 内部液晶のディスプレイと外部ディスプレイの同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

「方法 1」で「拡張表示」に設定した場合は、(Fn)+(F5)キーで表示装置を切り替えられません。「方法 1」の手順で表示装置を切り替えてください。
複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windows のログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザの切り替え］で切り替えた場合は、(Fn)+(F5)キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え『Windows のヘルプ』

2 ディスプレイ表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

7 メモリを増設する

増設メモリスロットに512MBまでの増設メモリを取り付けることができます。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け／取りはずし

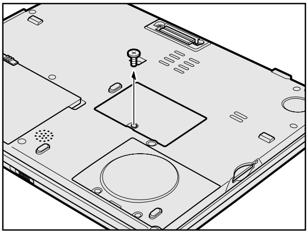
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックについて「5 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす

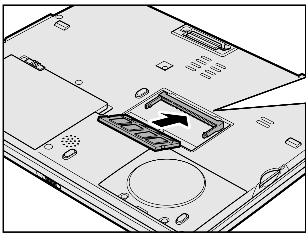


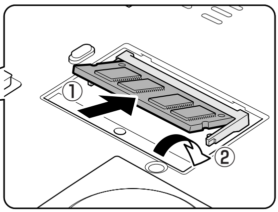
5 増設メモリを取り付けまたは取りはずす

- 取り付け

  増設メモリスロットのコネクタにあわせて斜めに挿入し①、固定するまで倒す②

  増設メモリの切れ込みを、コネクタのツメにあわせてしっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。

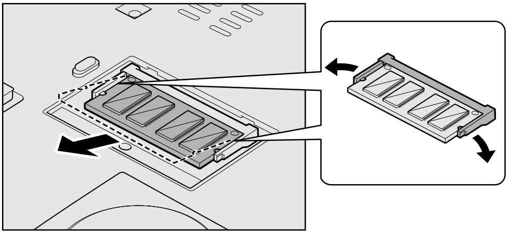




● 取りはずし

増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリを取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



6 **増設メモリカバーをはめ、手順４ではずしたネジでとめる**

7 **バッテリパックを取り付ける**

参照 バッテリパックについて「5 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

2 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする

② [基本情報の表示] ボタンをクリックする

③ [メモリ] の数値を確認する

メインメモリがビデオ RAM と共用のため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5章

バッテリ駆動

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危 険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS041）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

⚠ 警 告

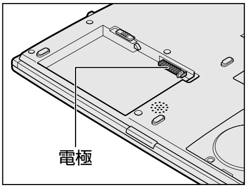
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

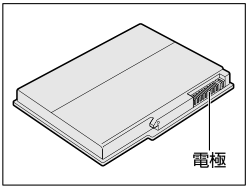
⚠ 注 意

- バッテリパックの充電温度範囲内（10 ～ 30℃）で充電してください。
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



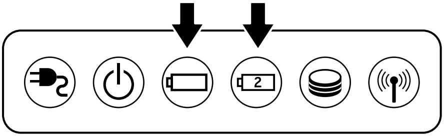


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery ▭ LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。また、大容量／中容量バッテリパックを取り付けている場合は、大容量／中容量バッテリ ▭2 LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。LED の色は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・AC アダプタが接続されていない／バッテリ駆動で使用中 ・バッテリが接続されていない ・バッテリ異常

2 タスクバーの［省電力］アイコンで確認する

タスクバーの［省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。



参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LED や［省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に 1 度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について「本節 ❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery ▭ LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  東芝省電力ユーティリティの［アラーム］タブで設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

① パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
② 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery ▭ LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power ⏻ LEDが緑色に点灯）	8時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

5章 バッテリ駆動

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

大容量／中容量バッテリパックを取り付けている場合は、標準のバッテリパック→大容量／中容量バッテリパックの順に充電されます。

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

状態	電源 ON	電源 OFF
標準のバッテリパック	約 2.1 〜 4.6 時間	約 2.1 時間
中容量バッテリパック	約 2.2 〜 5 時間	約 2.2 時間
大容量バッテリパック	約３〜８時間	約３時間

（注）周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

【 使用できる時間 】

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリパック	約 2.8 時間
標準のバッテリパック＋中容量バッテリパック	約 5.9 時間
標準のバッテリパック＋大容量バッテリパック	約 8.5 時間

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。
次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリパック	約 17 日	約２日
標準のバッテリパック＋中容量バッテリパック	約 35 日	約６日
標準のバッテリパック＋大容量バッテリパック	約 50 日	約８日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
  その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 「2章3-❷ 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  参照 「2章3-❸ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する 参照 「本章2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

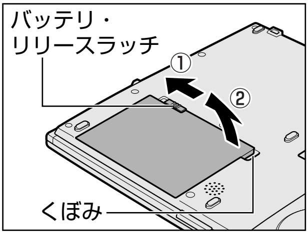
1 取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

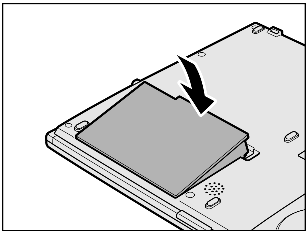
2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリパックを取りはずす②



5 交換するバッテリパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む



2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 起動方法

1 **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする**

2 ［電源設定］タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。



[電源に接続][バッテリを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリを使用中]はACアダプタ接続/バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。
購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリを使用中](バッテリ駆動で使用するとき)がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ	消費電力を最優先にして省電力制御を行います。 ＊無線LANモデルのみ

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。
すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。
省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【 省電力モードの作成 】

① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
② [コピー]ボタンをクリックする
　[〜のコピー]という省電力モードができます。
③ その省電力モードの名前を変更する
④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【 省電力モードの削除 】

① 削除する省電力モードをクリックする

② ［削除］ボタンをクリックする

［元に戻す］ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、［閉じる］ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックする（ ☑ ）と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。
省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

［タスクバーに Intel SpeedStep(R)Technology の状態を表示する］をチェックする（ ☑ ）と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。
CPU 周波数アイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

3 ［休止状態］タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合は、［休止状態をサポートする］をチェックしてください。



参照 休止状態について「2 章 3-❷ 休止状態」

4 省電力モードの詳細設定

1 ［東芝省電力のプロパティ］画面の［電源設定］タブで利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



［全般］タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

［省電力］タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPU の処理速度などを設定します。また、CPU が高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

［動作］タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、［現在の設定をすべてのモードで使用する］ボタンをクリックします。

［スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める］をチェックする（☑）と、Windows ログオンパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows ログオンパスワードの入力が必要になります。

［アラーム］タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。
［アラーム］タブは［電源設定］タブで［バッテリ使用中］に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

［デバイスの設定］タブ

＊無線LANモデルのみ

省電力モードで使用するとき、デバイスを有効／無効にする設定を行います。

ヘルプの起動方法

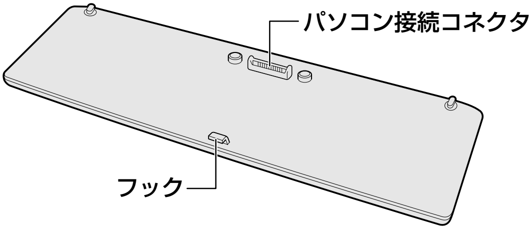
1 **「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の ? をクリックする**

ポインタが ? に変わります。

2 **画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする**

3 大容量／中容量バッテリパックを使う

本製品のドッキングポートに同梱の中容量バッテリパックまたは別売りの大容量バッテリパックを取り付けて、標準バッテリパックと同時に使用することにより、長時間バッテリ駆動で使用することができます。
充電方法、充電時間、バッテリでの使用時間については、標準バッテリパックとあわせて説明していますので、「本章 1 バッテリについて」をご覧ください。



⚠ 注 意

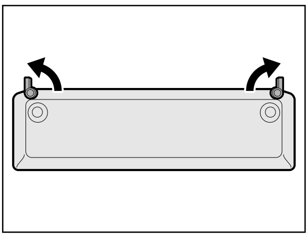
- バッテリパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

1 取り付け

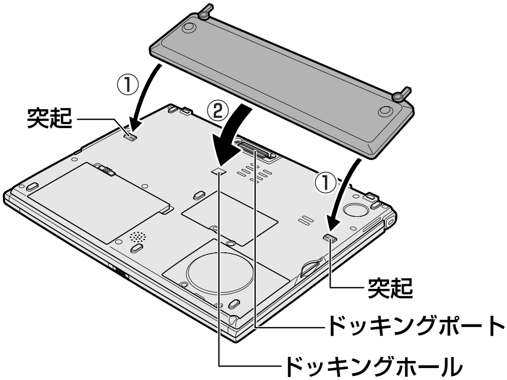
1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす**

2 **パソコン本体と大容量／中容量バッテリパックを裏返す**

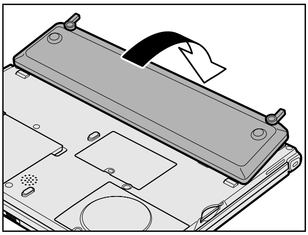
3 **大容量／中容量バッテリパックの左右のレバーを垂直に起こす**



4 パソコン本体の突起に大容量／中容量バッテリパックをあわせ①、中央のドッキングホールに大容量／中容量バッテリパック中央のフックをかける②

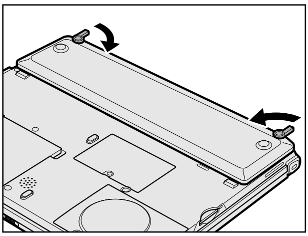


5 大容量／中容量バッテリパックを矢印の向きに倒す



大容量／中容量バッテリパックがドッキングポートにはまります。

6 大容量／中容量バッテリパックのレバーを元の位置に戻し、パソコン本体に固定する

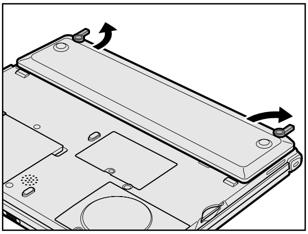


2 取りはずし

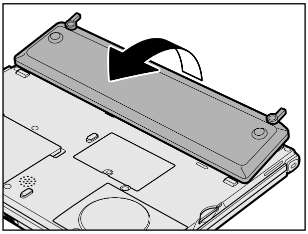
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす

2 パソコン本体と大容量／中容量バッテリパックを裏返す

3 大容量／中容量バッテリパックの左右のレバーを矢印の方向に起こす



4 大容量／中容量バッテリパックを矢印の方向に引き上げ、パソコン本体から取りはずす



6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1　システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
Windows 上のユーティリティには、「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力ユーティリティ」、「デバイスマネージャ」などがあります。

参照 東芝省電力ユーティリティについて「5 章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows 上のユーティリティでの設定が優先されます。

2 東芝HWセットアップを使う

東芝HWセットアップは、BIOSセットアップと連動してWindows上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［東芝HWセットアップ］をクリックする

2 設定項目

■［全般］タブ■

BIOSセットアップのバージョンと日付などを表示します。

【［標準設定］ボタン】

東芝HWセットアップの設定をご購入時の状態に戻します。

【［バージョン情報］ボタン】

東芝HWセットアップのバージョン情報を表示します。

■［デバイスの設定］タブ■

パソコンが起動したときにBIOSセットアップが初期化する装置を指定します。

【デバイスの設定】

- 全デバイス設定
  すべての装置を初期化します。
- OSによる設定（標準値）
  システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■［ディスプレイ］タブ ■

起動時の Windows ロゴを表示する装置を選択します。

【 起動時の表示装置 】

- 自動選択
  システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。
- 内部 LCD/ アナログ RGB 同時表示
  システム起動時に、外部ディスプレイ（アナログ RGB）が接続されている場合は、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

参照 外部ディスプレイの接続「4 章 6 外部ディスプレイを接続する」

Windows 起動後は、前回電源を切る前の表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

■［CPU］タブ ■

CPU について設定します。

【 CPU 周波数の設定 】

- ダイナミック切替モード（標準値）
  CPU の消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- 常時高速モード
  CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- 常時標準モード
  CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、標準周波数で動作します。

■［OS の起動］タブ ■

パソコンの起動について設定します。

【 OS の起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は［HDD → FDD → CD-ROM → LAN］に設定してください。

【 HDDの起動 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD→PC Card（標準値）
  パソコン本体のハードディスク→PCカードタイプのハードディスクの順で起動します。
- PC Card→Built-in HDD
  PCカードタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

【 ネットワークブートプロトコル 】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）
  PXEプロトコルに設定します。
- RPL
  RPLプロトコルに設定します。

■［キーボード］タブ ■

【 キーボードによるスタンバイ復帰 】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

- 有効にする
- 無効にする（標準値）

■［USB］タブ ■

USB対応機器について設定します。
レガシーサポートを行うと、ドライバが必要なUSB対応機器でもドライバなしで使用できます。

【 USBキーボード／マウス レガシーサポート 】

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSBキーボード、USBマウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

■［LAN］タブ ■

LAN 機能について設定します。

【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。
LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

ヘルプの起動方法

1 「東芝 HW セットアップ」を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが ? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティでの設定が異なる場合、Windows 上のユーティリティでの設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、次のように操作してください。

- **「Password = 」と表示されたとき**

・ユーザパスワードを登録してある場合
① ユーザパスワードを入力し、Enter キーを押す

参照 パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

6章 システム環境の変更

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。

「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 Escキーを押す

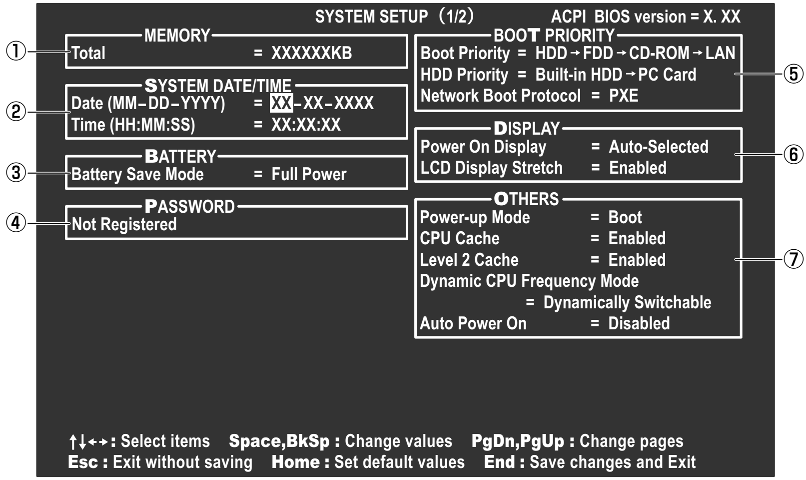
「Exit without saving? (Y/N)」と表示されます。

2 Yキーを押す

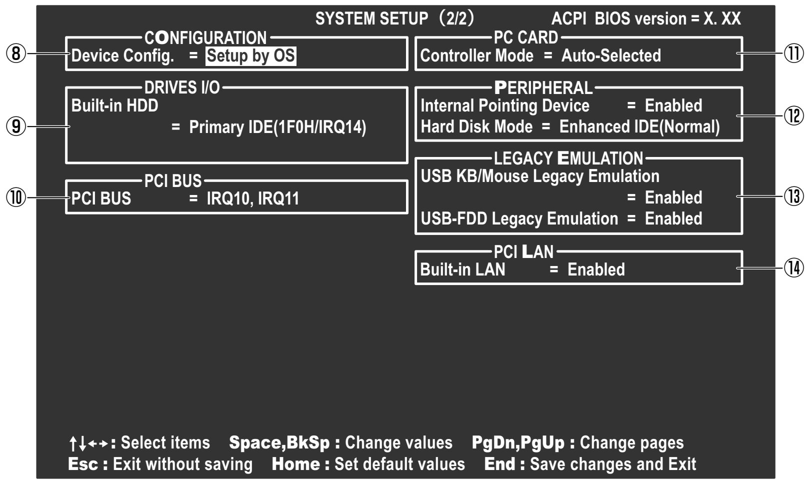
BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。



（注）画面は標準設定値の表示例です。



（注）画面は標準設定値の表示例です。

参照 設定項目の詳細について 「本節 ❸ 設定項目」

6章 システム環境の変更

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑、↓、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SpaceまたはBackSpace
画面を切り替える	Fn+↓またはFn+↑ 本製品では、Fn+↓がPgDnキー、Fn+↑がPgUpキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	Fn+← 本製品では、Fn+←がHomeキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD　●Hard Disk Mode

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORYーメモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIMEー日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定はSpaceまたはBackSpaceキーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、↑↓キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERYーバッテリで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

	●Full Power（標準値）	●User Setting（設定例）	●Low Power
Processing Speed	= High	= Low	= Low
CPU Sleep Mode	= Enabled	= Enabled	= Enabled
Display Auto Off	= 30Min.	= 03Min.	= 03Min.
HDD Auto Off	= 30Min.	= 03Min.	= 03Min.
LCD Brightness	= Bright*1 Super-Bright*2	= Semi-Bright	= Semi-Bright*1 Bright*2
Cooling Method	= Maximum Performance	= Battery Optimized	= Battery Optimized

（注）LCD Brightness（LCD輝度）の表示は次の状態で変わります。
　＊1　バッテリ駆動時
　＊2　ACアダプタ接続時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- Processing Speed
  処理速度を設定します。
  使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
  ・High.......................... 処理速度を高速に設定する
  ・Low........................... 処理速度を低速に設定する

- CPU Sleep Mode
  CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
  一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
  ・Enabled .... 電力消費を低減する
  ・Disabled .... 電力消費を低減しない

- Display Auto Off（表示自動停止時間）
時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。
画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。
画面に表示するには、Shiftキーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。
・Disabled .... 自動停止機能を使用しない
自動停止時間の設定は「01Min.」〜「30Min.」から選択します。

- HDD Auto Off（HDD自動停止時間）
設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
自動停止時間の設定は「01Min.」〜「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- LCD Brightness（LCD輝度）
画面の明るさを選択します。
・Semi-Bright .... 低輝度に設定する
・Bright........................ 高輝度に設定する
・Super-Bright .... 最高輝度に設定する

- Cooling Method（CPU熱制御方式）
CPUの熱を冷ます方式を選択します。
CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。
・Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。
・Performance .... CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。
・Battery Optimized .... CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORDーユーザパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

参照 ユーザパスワードの設定方法「本章 4-❶ ユーザパスワード」

5 BOOT PRIORITYーブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
- FDD → HDD → CD-ROM → LAN
- HDD → CD-ROM → LAN → FDD
- FDD → CD-ROM → LAN → HDD
- CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- CD-ROM → LAN → FDD → HDD

（FDD → HDD → CD-ROM → LAN から CD-ROM → LAN → FDD → HDD まで）指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD → PC Card（標準値）... パソコン本体のハードディスク→ PC カードタイプのハードディスクの順で起動する
- PC Card → Built-in HDD .... PC カードタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）.......... PXE プロトコルに設定する
- RPL .... RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAY－表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時のWindowsロゴを表示する装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）.... システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する

・LCD ＋ AnalogRGB .... 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する

SVGAモードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD ＋ AnalogRGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows起動後は、前回電源を切る前の表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

・Disabled .... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

・Enabled .... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

7 OTHERS－その他の設定をする

【 Power-up Mode（レジューム機能）】

レジューム機能を設定します。

・Boot（標準値）......... レジューム機能を無効にする

・Resume .... レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache（キャッシュ）】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・Disabled .... キャッシュメモリを使用しない

・Enabled（標準値）... キャッシュメモリを使用する

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

・Enabled（標準値）... 2次キャッシュを使用する

・Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

・Dynamically Switchable（標準値）... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
・Always Low .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低周波数で動作します。

【 Auto Power On（タイマ・オン機能）】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。
Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

・Disabled（標準値）... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能とも設定されていない
・Enabled .... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled .... 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled .... 月日を設定しない

- Wake-up on LAN
  ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
  「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
  Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。
  ・Enabled .... Wake up on LAN 機能を使用する
  ・Disabled（標準値）... Wake up on LAN 機能を使用しない

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

・Setup by OS（標準値）... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する それ以外の装置は OS が初期化します。この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
・All Devices .... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。ただし「11 PC CARD」の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

9 DRIVES I/O ー HDD、PC カードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 PC Card 】

PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。
システムを起動できる PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。
「8 CONFIGULATION」の「Device Config.」が「All Devices」の場合に変更できます。

- Auto-Selected（標準値）... プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合、選択します。
- Card Bus/16-bit .... Auto-Selectedで正常に動作しないCardBus対応のPCカードを使用する場合に選択します。
- PCIC Compatible .... Auto-SelectedやCardBus/16 - bitで正常に動作しない16 - bit PCカードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- Enabled（標準値）............ 使用する
- Disabled .... 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- Enhanced IDE (Normal)(標準値).... 通常はこちらを選択する
- Standard IDE .... Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する
この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／ USB マウスが使用できます。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Lagacy Emulation 】

・Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
・Disabled .... レガシーサポートを行わない

［USB-FDD Lagacy Emulation］が［Enabled］に設定されていても、「5 BOOT PRIORITY」の［Boot Priority］が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）... 有効にする
・Disabled .... 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品では、パスワードを登録できます。

- **Windows のログオンパスワード**
  Windows にログオンするとき
  インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

  参照 インスタントセキュリティ機能
  「3 章 2-❷- Fn キーを使った特殊機能キー」

- **ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード**
  電源を入れたときや東芝パスワードユーティリティを使用するとき
  通常はユーザパスワードを登録してください。

  参照 ユーザパスワード「本節 ❶ ユーザパスワード」

  スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
  この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

  参照 スーパーバイザパスワード「本節 ❷ スーパーバイザパスワード」

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードの登録方法とトークン[*1]の作成方法について説明します。

*1 パスワードの代わりに使用できる SD メモリカードです。

メモ

- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。

1 注意事項

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

お願い

パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

2 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの登録

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ユーティリティ］→［東芝パスワードユーティリティ］をクリックする**

2 **［登録］ボタンをクリックする**

［ユーザパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［入力］にパスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	− ！ @ < > ； ： ， ． （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・記号の一部（半角） 【例】｜（バーチカルライン）、＿（アンダーバー）、￥（エン）など	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。
メッセージの内容に従って、もう 1 度パスワードを入力してください。

4 ［確認入力］に手順 3 で入力したパスワードをもう 1 度入力する

5 ［登録］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 3 から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

① メディアをセットする

② ［保存する場所］で保存先を選択する

③ ［ファイル名］にファイル名を入力する

④ ［保存］ボタンをクリックする

お願い

パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

【 トークンの作成 】

トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモリカードです。トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。対応していないSDメモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモリカードを使用するか、「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。

参照 SDメモリカードのフォーマット
「4章 3-4 SDメモリカードのフォーマット」

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

1 SDメモリカードをセットする

2 ［作成］ボタンをクリックする

［ユーザトークンの作成］画面が表示されます。

3 ［SDカードのドライブ］でSDメモリカードのドライブを選択する

4 ［作成］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

トークンが作成されます。

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

BIOS セットアップでの登録

1 BIOS セットアップを起動する

2 **カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 **パスワードを入力する**

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

4 **(Enter)キーを押す**

パスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 **もう 1 度パスワードを入力する**

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう 1 度入力してください。

6 **(Enter)キーを押す**

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

3 ユーザパスワードの削除

東芝パスワードユーティリティでの削除

1 **[スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [東芝パスワードユーティリティ] をクリックする**

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。

2 **[削除] ボタンをクリックする**

[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。

3 ［パスワード］に、登録してあるパスワードを入力する

トークンを使用する場合は、［トークンで認証］を選択し、［SD カードのドライブ］でトークンをセットしたドライブを選択してください。

4 ［削除］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

BIOS セットアップでの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 Enterキーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 Enterキーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます

手順 3 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

4 ユーザパスワードの変更

東芝パスワードユーティリティでの変更

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ユーティリティ］→［東芝パスワードユーティリティ］をクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。

2 ［変更］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの変更］画面が表示されます。

3 ［現在のパスワード］に、登録してあるパスワードを入力する

トークンを使用する場合は、［トークンで認証］を選択し、［SD カードのドライブ］でトークンをセットしたドライブを選択してください。

4 ［入力］に新しいパスワードを入力する

5 ［確認入力］に手順４で入力したパスワードをもう 1 度入力する

6 ［変更］ボタンをクリックする

7 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

エラーメッセージが表示された場合は内容を確認し、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。
エラーメッセージの内容が認証エラーの場合は手順 3、確認入力エラーの場合は手順 5 から操作をやり直してください。

8 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 2- 東芝パスワードユーティリティでの登録」の手順 7 を確認してください。

BIOS セットアップでの変更

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、Enterキーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順５で入力したパスワードをもう１度入力し、Enterキーを押す

パスワードが変更されます。

手順５と手順６で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順５からやり直してください。

5 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが登録されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- パスワードファイルを確認する
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。
- トークンを使用して登録したパスワードを解除する

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。
パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

【 トークンの使用方法 】

- 電源を入れるとき

1 「Password=」と表示されたら、トークンをセットする

> メモ
> あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

- 「東芝パスワードユーティリティ」を使用しているとき

1 認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする

［トークンで認証］が選択できない場合は、認証を求める画面を閉じ、もう1度表示させてください。

2 画面に表示された説明に従って操作を行う

パスワードが解除され、次の操作に進みます。

② スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの登録や登録内容の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

1 **［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする**

2 **「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥TOSPU.EXE」と入力する**

3 **［OK］ボタンをクリックする**

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードを設定している場合はパスワードまたはトークンで認証を行ってください。

4 **［スーパーバイザパスワード］タブをクリックする**

操作方法

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。
ユーザパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザパスワード「本節 ❶ ユーザパスワード」

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！今までとは違う動きをする！なんだか変！不安だ！
そんなときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

パソコンの状態を確認してください。

- 電源は入りますか？
- 画面は表示されますか？
- タッチパッド、キーボードは操作できますか？

はい

オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見ることができます。
また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

いいえ

本章の「2 Q&A集」で調べてください。

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。

「dynabook.com」で調べてください。

インターネットに接続できる場合は「dynabook.com」のホームページで調べてください。
本製品の最新情報や、「よくあるご質問(FAQ)」、技術情報などが掲載されています。

参照 「本節 ❶-2 dynabookのサポート情報を見る」

アプリケーションのトラブル

各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

「9章 3-❸ アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

周辺機器のトラブル

各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

『周辺機器に付属の説明書』を確認してください。

パソコン本体のトラブル

「東芝PCダイヤル」に問い合わせてください。

巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項を確認してから、電話で問い合わせてください。

故障や修理などについてのサポート情報は、同梱の『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

1 トラブル解消に役立つ操作

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

「本章 2 Q&A 集」では、コントロールパネルの開きかたを省略しています。

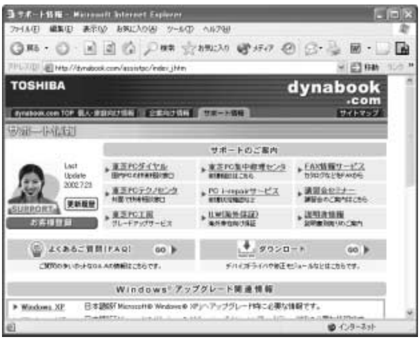
2 dynabookのサポート情報を見る

「よくあるご質問（FAQ）」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows 関連情報を提供しています。
また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

URL　http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

1 ［スタート］→［インターネット］をクリックする

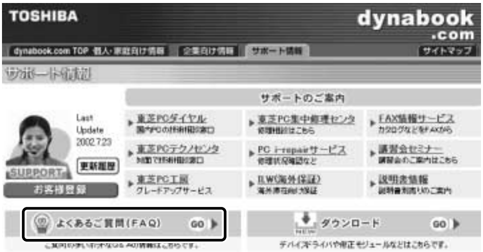
Internet Explorer が起動します。
購入時の状態では、起動して最初に dynabook のサポート情報のページが表示されるように設定されています。



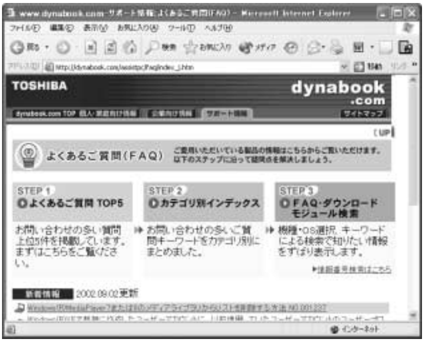
【 パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問（FAQ)」 】

URL　http://dynabook.com/assistpc/faq/index_j.htm

dynabook のサポート情報のページからは、［よくあるご質問］をクリックすると表示されます。



日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。
キーワードでも、普通の文章でも入力して、検索できます。



サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。

参照 ホームページアドレスについて
「9章 3-❸ アプリケーションの問い合わせ先」

2 Q&A 集

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery LED がオレンジ色に点滅している場合）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、通電する（他製品用の AC アダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「5 章 1-❷ バッテリを充電する」

（DC IN LED がオレンジ色に点滅している場合）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックや AC アダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし「5 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

参照 AC アダプタの接続「1 章 1-❶ 電源コードと AC アダプタを接続する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A システムの入っていないメディアがセットされているドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

CD やフロッピーディスクをシステムが入っているものと取り換えてから、何かキーを押してください。

A システムの入っていないドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

CD-ROM ドライブやフロッピーディスクドライブから CD やフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。

強制終了の方法は「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q.［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない」をご覧ください。

強制終了した後、F12キーを押しながら電源スイッチを押してください。

システムの入っているドライブのアイコンにカーソルを合わせてEnterキーを押すと、システムが起動します。

参照 起動ドライブについて「2 章 1-3 起動するドライブを変更する場合」

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［アクセサリ］ → ［システムツール］ → ［タスク］をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。

③ ［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする

③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] を選択する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

Q [シャットダウン] や [終了オプション] から電源が切れない

A **Ctrl + Alt + Del キーを押して、電源を切ってください。**

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

● **ドメイン参加している場合**

① Ctrl + Alt + Del キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。

② [シャットダウン] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt + S キーを押してください。

③ [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑ キーや ↓ キーで [シャットダウン] を選択し、Enter キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

● **ドメイン参加していない場合**

① Ctrl + Alt + Del キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。

② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt + U キーを押してください。

③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、U キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A **Ctrl + Alt + Del キーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押してください。**

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A **パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。**

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A **Power ⏻ LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。**

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A **Power ⏻ LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、スタンバイまたは休止状態になった可能性があります。**

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態に移行するように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A **パソコンが処理をしている最中(Disk LED が点灯中)に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。**

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックについて『Windows のヘルプ』

Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。

次の手順で登録を削除できます。

① ［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［開く］をクリックする

② ［プログラム］アイコンをダブルクリックする

③ ［スタートアップ］アイコンをダブルクリックする
［スタートアップ］画面が表示されます。

④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを削除する］をクリックする
［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。

⑤ ［はい］ボタンをクリックする

⑥ ［スタートアップ］画面の［閉じる］ボタンをクリックする

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。

③ ［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす

④ ［OK］ボタンをクリックする

Q パソコンが休止状態にならない

A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。
休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

A ［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。
［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき
 - Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

A 休止状態の設定になっていない可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［休止状態］タブで［休止状態をサポートする］をチェックする
③ ［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について「2 章 3-❷ 休止状態」

【画面／表示】

Q 画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。
電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が緑色に点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。
次の操作を行ってください。

① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する
ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。

② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す

パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の［スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。

参照 インスタントセキュリティ機能について
「3章 2-❷- Fnキーを使った特殊機能キー」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。
Fn＋F5キーを3秒以上押し続けると、表示装置が内部液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 6 外部ディスプレイを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A Fn＋F7キーを押して、内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。
逆に、Fn＋F6キーを押すと、内部液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
Fnキーで内部液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

② ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする

③ ［省電力］タブで［モニタの輝度］を設定する

④ ［OK］ボタンをクリックする

⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、内部液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。バックライト用蛍光管は、使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。消耗品となります。

Q 画面の表示や色がはっきりしない

A **画面の解像度をパソコン本体のディスプレイサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。**
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［画面］をクリックする

② ［設定］タブで設定を変更する

- 表示がはっきりしない場合
［画面の解像度］をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
［画面の色］を［最高（32 ビット)］に変更してください。

③ ［OK］ボタンをクリックする

参照 ディスプレイの解像度について「3 章 4 ディスプレイ」

Q CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A **テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。**
パソコンと電気製品との距離を離してください。

【Windows】

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリック→［日付と時刻を変更する］をクリックする
② ［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
③ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う
④ ［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。
パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。
保守サービスに連絡してください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。
また、ご購入時の状態の省電力モードは、AC アダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。
CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［電源設定］タブで利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［省電力］タブの［CPU の処理速度］で、バッテリ残量に応じて処理速度を設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力モードについて「5 章 2 省電力の設定をする」

A パソコンのCPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。
しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

【バッテリ駆動で使用するとき】

Q Battery LED が点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体にAC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存してください。

参照 バッテリの充電方法「5 章 1-❷ バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう 1 度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリを再充電してみてください。

参照 再充電について「5 章 1-❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について「5 章 1-❶ バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

② [電源設定] タブでバッテリ駆動中に使用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【キーボード】

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。

システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次のいずれかの操作を行ってください。

● **キー入力時にタッピング機能が効かないように設定する**

① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする

② [拡張] タブの [拡張機能の設定] ボタンをクリックする

③ [タッチパッド] タブの [ポインタ速度とタッピングの設定] で [設定] ボタンをクリックする

[タッチパッドの詳細設定] 画面が表示されます。

④ [タッピング] で [タッピングを有効にする] のチェックをはずす

⑤ [OK] ボタンをクリックする

● タッチパッドを無効に設定する

Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

参照 詳細について「3章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」

Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。

\ろ を押すと¥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

Q ひらがなや漢字の入力ができない

A 日本語入力システムが起動していない状態になっています。

半/全キーを押して、日本語入力システムを起動してください。

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

Shift＋CapsLock 英数キー	大文字ロック状態
Alt＋カタカナひらがなキー	ローマ字入力／かな入力の切り替え
Fn＋F10キー	アロー状態
Fn＋F11キー	数字ロック状態

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバを再設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［システム］をクリックする
［システムのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。

④ ［キーボード］をダブルクリックする

⑤ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。

⑥［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［ハードウェアの更新ウィザード］画面が表示されます。

⑦［一覧または特定の場所からインストールする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

⑧［検索しないで、インストールするドライバを選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

⑨［互換性のあるハードウェアを表示］のチェックをはずす
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。

⑩［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語 PS/2 キーボード（106 ／ 109 キー Ctrl ＋英数)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［デバイスのインストールの確認］画面が表示されます。

⑪［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。

⑫［完了］ボタンをクリックする

⑬キーボードのプロパティ画面で［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

⑭［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A ［スタート］メニューから再起動してください。

この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。

A ［スタート］メニューから再起動できない場合は、Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを５秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

しばらくしてから電源を入れ直してください。

強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。
もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

【タッチパッド／マウス】

＊マウスは別売りです。

タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。
ポインタが砂時計の形（ ⌛ ）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。
Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 詳細について「3 章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」

ダブルクリックがうまくできない

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［マウス］をクリックする

② ［ボタン］タブで［ダブルクリックの速度］のスライダーバーを左右にドラッグする

③ ［OK］ボタンをクリックする

ポインタの動きが遅い／速い

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［マウス］をクリックする

② [ポインタオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
③ [OK] ボタンをクリックする

A マウス内部が汚れていないか確認してください。
マウス内部が汚れていると動きが鈍くなります。マウス内部の掃除を行ってください。
マウスの手入れについては 『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。
マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。
また、マウスの動きを滑らかにするには、マウスパッドの使用を推奨します。

Q USB マウスが使えない

A マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。
マウスの接続については、『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 新しく接続したハードウェアとして認識されていない可能性があります。
次の手順で [新しいハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。

① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

【通信機能】

＊無線 LAN モデルのみ

Q 無線 LAN 機能が使えない

A ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。

A ConfigFree でデバイスを有効に切り替えてください。

① タスクバーの [ConfigFree] アイコンをクリックする
[デバイス] の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。
② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから [有効] をクリックする

Q 赤外線通信ができない

A 赤外線通信ができる環境になっていない可能性があります。
次の点を確認してください。

- 通信先とパソコン通信速度を同じにする
- 赤外線ポート間の障害物を取り除く
- 赤外線ポートの汚れをおとす
- 赤外線ポートの設定を正しく設定する

Q 赤外線通信ソフトが使えない

A 赤外線ソフトが正しく設定されていない可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［ワイヤレスリンク］をクリックする
③ ［赤外線］タブの［ファイルの転送オプション］で［赤外線通信によるファイルの受信を可能にする］をチェックする

Q 赤外線通信はできるが、データが正しく送られない

A 正しく通信できる環境になっていない可能性があります。
次のことを行ってみてください。

- 通信先とパソコン通信速度を同じにする
- 通信先との距離を近付ける
- 直射日光や蛍光灯の当たる場所からパソコンを離す
- 赤外線を出す装置をパソコン本体から離す

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A Fn＋①キー、Fn＋②キーで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
Fn＋Escキーを押してミュートを解除してください。

A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする

② ［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。

③ ［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を［SoundMAX Digital Audio］に設定する

④ ［OK］ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
次の場所からサウンドドライバを再インストールしてください。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

A PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

【周辺機器】

周辺機器については「4 章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。
USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

次の手順で［ハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。

周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

【PC カード】

Q PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PC カードの接続について「4 章 2 PC カードを使う」

Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。

使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

A 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしていません。

Q PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［システム］をクリックする
② ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
③ 使用しない装置の種類をダブルクリックする
④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする
⑤ メッセージが表示されたら［はい］ボタンをクリックする
⑥ ［デバイス マネージャ］を閉じる
⑦ ［システムのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

【SD メモリカード】

Q SD メモリカードが使えない

A SD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。
SD メモリカードが奥まで挿入されているか確認してください。

Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

A 使用するアプリケーションでは対応していないフォーマットの SD メモリカードを挿入している可能性があります。
フォーマットし直してから、SD メモリカードを使用してください。
フォーマットは、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 フォーマットについて「4 章 3-4 SD メモリカードのフォーマット」

A SD メモリカードのライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっていると、書き込み（データの保存）ができません。
SD メモリカードを取り出して、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

参照 ライトプロテクトタブ「4 章 3-1 SD メモリカードについて」

A SD メモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。
次のいずれかの操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダを削除して空き容量を増やしてから、やり直す
SD メモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別の SD メモリカードを使用する

Q SD メモリカードの曲を再生できない

A SD メモリカードに、再生できる曲のファイルが保存されていない可能性があります。ファイルがあるかどうか確認してください。

A 著作権保護技術を使用して書き込まれた音楽データは使用できません。
または、再生しようとしたデータが、使用するアプリケーションでは対応していないファイル形式の可能性があります。ファイル形式を確認してください。

Q 「フォーマットされていません」というエラーメッセージが表示された

A PC カードと SD メモリカードを挿入した状態でパソコンを起動すると、SD メモリカードに正しくアクセスできない場合があります。
SD メモリカードを SD メモリカードスロットから取り出して、もう 1 度セットしなおしてください。

Q 「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」と表示された

A ファイル読み込みでエラーが検出されました。データが壊れている可能性があります。
そのファイルを削除してください。
このエラーが多発する場合は、その SD メモリカードをフォーマットしてください。
フォーマットは、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 フォーマットについて「4 章 3-4 SD メモリカードのフォーマット」

【コンパクトフラッシュカード】

＊コンパクトフラッシュモデルのみ

Q コンパクトフラッシュカードが認識されない

A コンパクトフラッシュカードが正しい向き（ラベル面が上）で、奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

【USB 対応機器】

Q USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について「4 章 5 USB 対応機器を接続する」

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。
Windows を再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順でインストールしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。

③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

【アプリケーション】

Q アプリケーションが使えない

A 正しくインストールしていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。

アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。

詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

A メモリ容量が足りない可能性があります。

アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 メモリの増設について「4章 7 メモリを増設する」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
［Windowsのセキュリティ］画面が表示された場合は、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

② ［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションをクリックする

③ ［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは次の場所から再インストールできます。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］

【メッセージ】

Q 「Password=」と表示された

A パスワードの入力、またはトークンによる認証が必要です。
次のいずれかの操作を行ってください。

- パスワードを入力し、Enterキーを押す
  あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存しておくと、パスワードを忘れた場合に確認できます。他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。
- あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」で作成したトークンをSDメモリカードスロットに挿入し、認証を行う

上記の方法を実行できない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。
Caps Lock LEDを確認してください。必要に応じてShift+CapsLock 英数キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。
「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」を選択し、Enterキーを押してください。
Windowsが起動します。

Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」「Press [F1] key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリが不足しています。

次の手順で、BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

① F1キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

② BIOS セットアップの［SYSTEM DATE/TIME］で日付と時刻を設定する

参照 日付と時刻の設定方法「6 章 3 BIOS セットアップを使う」

③ Fn＋→キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

④ Yキーを押す
BIOS セットアップが標準設定の状態になり、終了します。
パソコンが再起動します。

Q C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。

次のいずれかの操作を行ってください。

● コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
Alt＋Enterキーを押してください。

● コマンドプロンプト画面を終了する
① EXITとキーを押す
② Enterキーを押す

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でハードディスクをチェックしてください。

① ［マイコンピュータ］を開く
② （C：）ドライブをクリックする
③ メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする
④ ［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする
⑤ ［ディスクのチェック］画面で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする
⑥ ［開始］ボタンをクリックする
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

参照 セーフモードについて『Windows のヘルプ』

Q Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。
ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入店、または保守サービスに相談してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。
ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。
次の方法で調整してください。

- Fn＋1キー、Fn＋2キーで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照 音量の調節「3 章 5 サウンド機能」

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

参照 アプリケーションの強制終了の方法
「本節 アプリケーション -Q. アプリケーションが操作できなくなった」

この場合、保存されていないデータは消失します。
アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windowsを強制終了し、再起動してください。
強制終了の方法は、次のとおりです。
システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windowsのセキュリティ］画面が表示されます。

② [シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ [シャットダウン］を選択し、[OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで[シャットダウン］を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

● ドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて『東芝 PC サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、巻末の「トラブルチェックシート」で、必要事項を確認のうえ、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「9 章 3-❸ アプリケーションの問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 周辺機器の問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。

参照 廃棄について「9章 2 廃棄・譲渡について」

8章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。

1 再セットアップする前に

システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。
また、システムを復元せずにハードディスクのデータを消去することもできます。
目的にあった方法を選んでください。

参照 ハードディスクのデータ消去
「9章 2-❸ ハードディスクのデータ消去」

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、「7章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

- ハードディスクをフォーマットしてしまった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない

2 準備

データのバックアップをとる

標準システムの復元をすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。
標準システムの復元後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。
標準システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す

フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードディスクドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

2 再セットアップする

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションをすべて復元し、購入時の状態に戻す方法について説明します。
本製品の再セットアップは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人に再セットアップを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード「6章 4-❶ ユーザパスワード」

お願い

市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、再セットアップができなくなる場合があります。

1 再セットアップ

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。

1 操作手順

1 パソコンの電源を切る

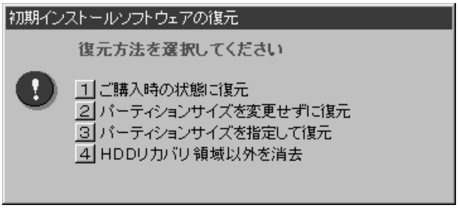
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

4 ご購入時の状態に復元する場合は1キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は2キーを、パーティション設定を指定する場合は3キーを押す

ハードディスクを分割しないでCドライブのみとする場合は、1キーを押してください。パーティションとは、1台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在複数のパーティションを設定している場合で、パーティションサイズを変更しないときは2キー、変更するときは3キーを押してください。
4キーを押すと、HDDリカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、ハードディスク上のデータはすべて消失します。詳細は「9章 2-❸ ハードディスクのデータ消去」を参照してください。



- 1キーを押した場合

  「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

  手順５に進んでください。
- 2キーを押した場合

  「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

  手順５に進んでください。
- 3キーを押した場合

  「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

  ① Yキーを押す

  ［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。

  ② ←または→キーを使ってパーティションのサイズを指定する

  ここではハードディスクに対するＣドライブのサイズを設定します。HDD リカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除く領域のパーティションサイズを指定できます。

  ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参照 設定方法について「本節 ❷ パーティションの設定」

  ③ Enterキーを押す

  「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

  手順６に進んでください。

5 Yキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

6 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう 1 度 0%から始まります。グラフが 2 度目に 100%に達すると完了です。



復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 何かキーを押す

システムが再起動します。

8 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続「4 章 周辺機器の接続」

Office 搭載モデルでは購入時「Microsoft® Office XP Personal」がプレインストールされていますが、「Microsoft® Office XP Personal」は、以上の手順では復元されません。
Windows セットアップが終了した後に、『Microsoft® Office XP Personal セットアップガイド』をよく読んで、復元してください。

参照 Microsoft Office の再インストール
「本項 2 Microsoft Office XP を再インストールした場合」

8章 再セットアップ

2 Microsoft Office XP を再インストールした場合

「Microsoft Office XP」または「Microsoft Bookshelf Basic」を再インストールした場合、「Microsoft Office XP 修正モジュール」の［修正モジュールのセットアップ］をインストールする必要があります。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［アプリケーション］タブ→「Microsoft Office XP 修正モジュール」の［修正モジュールのセットアップ］をクリックする

ダウンロード画面が表示されます。

3 ［開く］ボタンをクリックする

自動的に修正モジュールのインストールが行われます。

修正モジュールが正しくインストールされると、［スタート］→［すべてのプログラム］→［スタートアップ］に、［Microsoft Office］の項目がなくなります。
なくなったことを確認し、再起動を行ってください。

「Microsoft Office XP」を再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。『Microsoft® Office XP Personal セットアップガイド』を確認してください。

「読み上げ」および「声で入力」の組み込み方法は、『LaLaVoice ヘルプ』の「マクロのインストール／アンインストール」を確認してください。

② パーティションの設定

パーティションの設定を変更した場合は、再セットアップ後すみやかに設定を行ってください。
本製品の内蔵ハードディスクには、再セットアップ用のデータが格納されています。したがって実際に使用できるハードディスクの容量（ユーザ領域）は、製品に搭載されている容量よりも少なくなります。

お願い

Windows の「ディスク管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

3 ［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［管理ツール］をクリックする

4 ［ コンピュータの管理］をダブルクリックする

5 ［ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク 0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・パーティションの種類
・パーティションサイズ
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・フォーマット
・ファイルシステム

9 **設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする**

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。

詳細については『コンピュータの管理のヘルプ』を参照してください。

ヘルプの起動方法

1 **メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする**

9章

こんなときは

アプリケーションの使用、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。
また、バッテリパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について説明しています。

1 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- インターネットのお気に入り　など

消耗品について

【 バッテリパック 】

次のものは消耗品です。

- バッテリパック（充電式リチウムイオンポリマ電池）
- 大容量バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）
- 中容量バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパック PABAS041 または大容量バッテリパック PABAL007、中容量バッテリパック PABAM002 と交換してください。

【 バックライト用蛍光管 】

内部液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管は消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から 6 年 6ヶ月です。

2 廃棄・譲渡について

1 バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

Li-ion

- バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先

  社団法人 電池工業会
  TEL／03-3434-0261
  ホームページ／http://www.baj.or.jp

2 パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。
詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。
（LCD 表示部に使用している蛍光灯には水銀が含まれています。）

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を破棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施しています。
使用済みになった東芝製品については、東芝の回収・処理システムの利用をお願いします。

- 問い合わせ先

  東芝パソコンリサイクルセンター
  〒 230-0034　神奈川県横浜市鶴見区寛政町 20-1
  株式会社テルム内
  電話番号 ：045-510-0255
  受付時間 ：9:00 ～ 17:00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
  FAX ：045-506-7983（受付時間：24 時間）

2 お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄する場合は、「パソコンお客様ご登録係」まで連絡のうえ、登録の削除の手続きをしてください。

パソコンお客様ご登録係
TEL／043-278-5997
受付時間／9：00 ～ 17：00（土・日、祝日、特別休日を除く）

3 ハードディスクのデータ消去

1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク上に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆ データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ ソフトで初期化（フォーマット）する

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、パソコンのハードディスク上の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

本製品には、パソコン上のデータを消去する機能があります。

参照 「本項 2 ハードディスクの内容を消去する」

この機能は、Windows などの OS によるデータの消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域（＊）にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用したデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。
＊ 内蔵ハードディスクからの再セットアップが可能な製品は、再セットアップに必要な領域は削除されません。

データ消去については、次のホームページも参照してください。
URL　http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

2 ハードディスクの内容を消去する

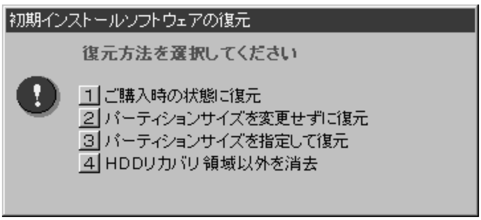
パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの(0)（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

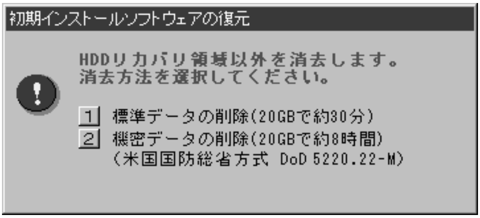


4 (4)キーを押す

「HDD リカバリ領域以外は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、(N)キーを押してください。

5 Yキーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。



6 目的にあわせて、1または2キーを押す

通常は、1キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、2キーを押してください。数時間かかりますが、HDD リカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、データは消去されます。

3 アプリケーションについて

1 複数のユーザで使用する場合

複数のユーザで使用できるWindows XPでは、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 複数のユーザで使用する場合について『オンラインマニュアル』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
Norton AntiVirus	○		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
駅すぱあと	○			○
ekitanExpress Online	○		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
LaLaVoice	○＊1		○	○
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ		○		○＊2
東芝PC診断ツール		○		○＊2
東芝HWセットアップ	○			－＊3
東芝省電力ユーティリティ		○	○	－＊3
東芝パスワードユーティリティ	○＊4			○
東芝SDメモリカードフォーマット		○		○＊5
ConfigFree		○		○＊2
Fn-esse	○		○	○
DIONかんたん設定ツール		○	○	○＊2
@niftyでインターネット		○		○＊2

＊1 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
＊2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
＊3 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
＊4 制限付きアカウントでWindowsにログオンしている場合は、トークンの作成など一部の機能は使用できません。
＊5 同時に起動することはできますが、同時にフォーマットすることはできません。

2 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションやドライバを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 表示されるメッセージに従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［開く］ボタンをクリックしてください。

3 アプリケーションの問い合わせ先

＊ 2003 年 6 月現在の内容です。

本製品に添付されているアプリケーションやプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。
各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先までお問い合わせください。

Acrobat Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／Outlook Express／Windows Media Player／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／東芝コントロール／東芝省電力ユーティリティ／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ／東芝パスワードユーティリティ／東芝SDメモリカードフォーマット
東芝（東芝PCダイヤル） お問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録」を行っていただきますようお願い申し上げます。 ナビダイヤル 0570-00-3100（サポート料無料） 受付時間　：　9:00〜19:00（年中無休） システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。 なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。 電話番号はお間違えのないようお確かめのうえ、おかけくださいますようお願いいたします。お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。 拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。 ご注意 ・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。 ・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

Microsoft Bookshelf Basic／Microsoft Excel／Microsoft Outlook／
Microsoft Outlook Plus!／Microsoft Word

＊Office搭載モデルのみ

マイクロソフト株式会社 お問い合わせ各種窓口

●無償サポート専用回線

セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

TEL ： 東京：03-5354-4500
大阪：06-6347-4400
受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日、日曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）
期間 ： サポート提供期間中
回数 ： 指定はございません。

基本操作に関するお問い合わせ

TEL ： 東京：03-5354-4500
大阪：06-6347-4400
受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）
期間 ： サポート提供期間中
回数 ： 4件のご質問

●早急に回答が必要な場合

サポートオンライン　http://support.microsoft.com/
サポートオンラインではよく寄せられる質問の回答集を検索することができます。

●どなたでも気軽に参加できるコミュニティサイト

答えてねっと　http://www.kotaete-net.net/
マイクロソフト製品をはじめとしたパソコン一般に関するトラブルや疑問などについて、質問・回答・情報交換が自由に行えるマイクロソフトが運営するWeb上のコミュニティサイトです。
初心者の方からパワーユーザーの方まで、すべての方に24時間いつでも無料でご利用いただけます。
なお、ご利用いただくにはMicrosoft .NET Passportの登録が必要となります。

●マニュアルの乱丁・落丁、ディスク不良、オフィシャル ユーザー登録／変更の受付、およびご購入前の製品／これから発売される製品に関するお問い合わせ窓口

マイクロソフトカスタマーインフォメーションセンター

TEL ： 03-5454-2300
受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～17:30
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、土・日・祝祭日を除く）

※ご購入前の製品やこれから発売される製品に関するお問い合わせは、お電話でのみ受け付けています。
上記以外に聴覚・言語に障害があるかたのための窓口もご用意させていただいております。

The翻訳インターネット
東芝翻訳サポートセンタ TEL　：フリーダイヤル 0120-1048-37 ＊携帯電話、PHSをご利用の場合：03-5465-7290 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00 （土・日・祝日ならびに本サポートセンタ臨時休業日を除く） E-mail　：honyaku@toshiba.co.jp ホームページ：http://www.hon-yaku.toshiba.co.jp/ ※「The翻訳インターネット」は、AOL専用ブラウザおよび、メーラーに連携させることはできません。
駅すぱあと
株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター TEL　：03-5373-3522 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日を除く） FAX　：03-5373-3523 E-mail　：support@val.co.jp ＊ユーザー登録されたお客様が対象となります。 ホームページ：http://ekiworld.net/
Norton AntiVirus
●技術的なお問い合わせ シマンテックテクニカルサポートセンター なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。 ホームページ：http://www.symantecstore.jp/oem/toshiba/ TEL　：03-5836-2621 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00 （土・日・祝日・年末年始を除く） FAX　：03-5836-2623 ※本製品でNorton AntiVirusをご使用の場合、電話によるサポートは製品のご使用を開始されてから90日間となります。それ以降は、有償サポートをご購入いただくかパッケージ製品へアップグレードしていただくことでサポートを受けていただくことが可能となります。 ●カスタマーID取得、およびご購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ コンシューマ・カスタマーサービスセンター TEL　：03-5836-2654 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00 （土・日・祝日・年末年始を除く） FAX　：03-5836-2655

ekitanExpress Online
ekitanExpress Onlineお問い合わせ窓口 電子メールでのみ受けつけております。 受付時間　：24時間 ※Webmasterからの返信は、基本的に平日（9:00〜17:00）の対応とさせていただいております。 また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。 E-mail　：express-support@ekitan.com ホームページ：http://express.ekitan.com/
フレッツADSL
＜登録に関するお問い合わせ＞ 東芝ヘルプデスクセンター ＴＥＬ　：043-278-7522 受付時間　：9:00〜17:00 （土・日・祝祭日・年末年始および弊社特別休日を除く）
Yahoo! BB
Yahoo! BBカスタマーサポートセンター ＴＥＬ　：0120-919-820 携帯電話・PHS：03-6688-5001（東京）通話料金はお客様負担となります。 受付時間　：24時間（年中無休／施設点検日およびメンテナンス日は休業） ＊23時から翌朝9時までの時間は「サービスご利用中のトラブル、故障」のみ受け付けております。 E-mail　：info@ybb-support.jp ホームページ：http://bb.yahoo.co.jp
@nifty
@nifty入会センター ＴＥＬ　：0120-816-042 （携帯電話／PHS／海外の場合）03-5753-2374 （電話料金はお客様ご負担となります。） お問い合わせの際は、電話番号をよくお確かめください。 受付時間　：毎日 9:00〜21:00 ※ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。 E-mail　：https://www.nifty.com/support/madoguchi/form_join.htm ホームページ：http://www.nifty.com/support/madoguchi/

DION
KDDIカスタマーサービスセンター ●サービス内容に関するお問合わせ TEL　：0077-7192（無料／9:00～21:00／土・日・祝日も受付中） ●接続・設定に関するお問合わせ TEL　：0077-7084（無料／9:00～21:00／土・日・祝日も受付中） ADSLについては24時間受付中！ ※「フレッツ・ADSL」コースについてはお問合せ内容によってお答えできない場合があります。 メールでのお問い合わせはホームページから：http://www.dion.ne.jp/cs/

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		S8シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b、 APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	最大64MB（システムメモリと共用）
表示機能	表示装置	12.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768　1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 85キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	ハードディスクドライブ	1台内蔵
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	2個装備　USB2.0準拠 *1（無線LANモデル） 3個装備　USB2.0準拠 *1 （コンパクトフラッシュモデル）
	PCカード	1個装備　PC Card Standard準拠（TYPEⅡ） CardBus対応
	SDメモリカード	1個装備
	コンパクトフラッシュ*2	1個装備　CFA準拠（TYPEⅠ／Ⅱ）
	モデム	1個装備（ITU-T V.90準拠）
	LAN	1個装備　100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN *3	1個装備　IEEE802.11b準拠　11Mbpsまで対応
	サウンド	マイク入力（モノラル） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） ヘッドホン出力（ステレオ） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） 内蔵スピーカ（モノラル）装備
	赤外線通信 *3	1ポート装備　IrDA1.1準拠
カレンダ機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V-240V～（50Hz、または60Hz）
	バッテリ	バッテリパック（標準装備） Li-Polymer　10.8V/1,760mAh 中容量バッテリパック Li-ion　10.8V/1,950mAh 大容量バッテリパック（別売り） Li-ion　10.8V/3,600mAh

最大消費電力	約45W
使用環境条件	温度：5℃～35℃　湿度：20%～80%Rh
外形寸法（突起部除く）	286 (幅) x 229 (奥行) x 14.9～19.8(高さ) mm
質量	約1.09kg

＊1 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍（理論値）の高速データの転送の可能なHighspeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB対応機器の動作を保証するものではありません。
＊2 コンパクトフラッシュモデルのみ
＊3 無線LANモデルのみ

【 東芝PC診断ツール 】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ユーティリティ］→［PC診断ツール］をクリックする

2 ［基本情報の表示］ボタンをクリックする

メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし［CPU］の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【 電源コードの仕様 】

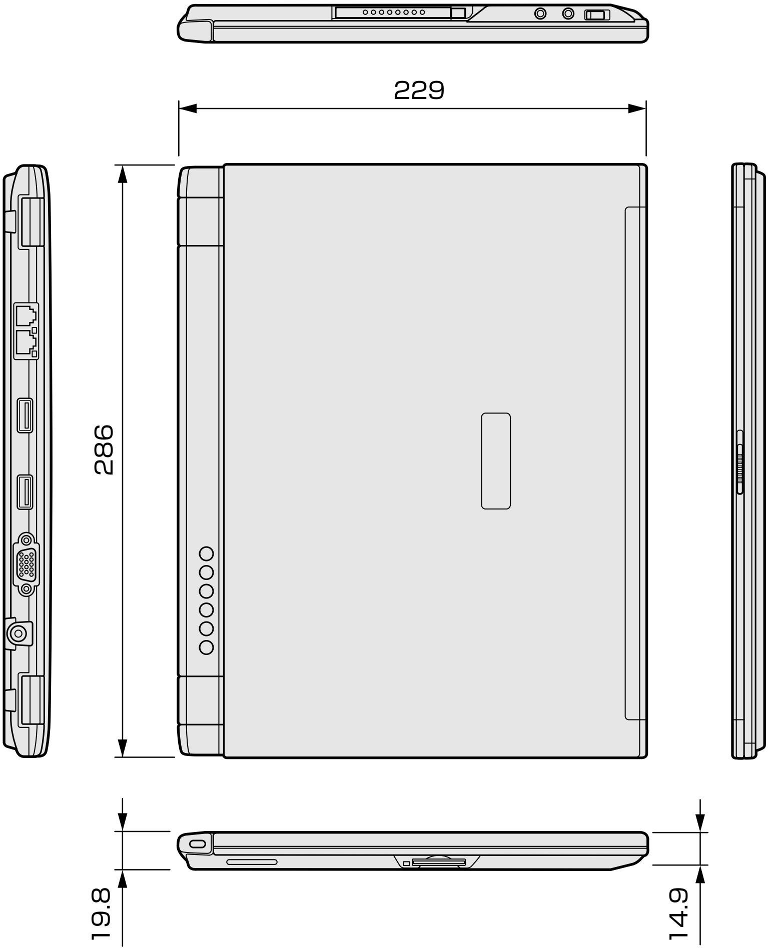
本製品に同梱されている電源コードは、電気用品安全法に準拠しています。
日本以外の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。
使用できる電圧（AC）は100Vです。必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

【 ACアダプタの仕様 】

入力　：AC100-240V ～、1.1-0.6A、50-60Hz
出力　：DC15V 3A

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。（単位 mm）



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「3 章 4-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

付録

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
−	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	−	256/256K	60/75/85 /100
−		800 x 600ドット	−		
−		1024 x 768ドット	−		
−		1280 x 1024ドット*1	−		
−		1400 x 1050ドット*1	−		60/75/85
−		1600 x 1200ドット*1	−		60/75/85 /100
−		1920 x 1440ドット*1	−		60/75/85
−		2048 x 1536ドット*1	−		60/75
−		640 x 480ドット	−	64K/64K	60/75/85 /100
−		800 x 600ドット	−		
−		1024 x 768ドット	−		
−		1280 x 1024ドット*1	−		
−		1400 x 1050ドット*1	−		60/75/85
−		1600 x 1200ドット*1	−		60/75/85 /100
−		1920 x 1440ドット*1	−		60/75/85
−		2048 x 1536ドット*1	−		60/75
−		640 x 480ドット	−	16M/16M	60/75/85 /100
−		800 x 600ドット	−		
−		1024 x 768ドット	−		
−		1280 x 1024ドット*1	−		
−		1400 x 1050ドット*1	−		60/75/85
−		1600 x 1200ドット*1	−		60/75/85 /100
−		1920 x 1440ドット*1	−		60/75/85
−		2048 x 1536ドット*1	−		60/75

＊1：内部液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする**

2 **画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする**

3 **調べたい項目をクリックする**

メモリマップ　：［メモリ］
I/O ポートマップ　：［I/O］
IRQ 使用リソース　：［IRQ］
DMA 使用リソース　：［DMA］

付録

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注 意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格（PTT）ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のパームレストを開けないでください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

① データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

② パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

④ ハードディスクドライブカバーのネジ2本をはずし、ハードディスクカバーとハードディスクドライブを取りはずす

⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 15 本をすべて取りはずす
⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のネジ 2 ケ所をはずす
⑦ キーボードをはずし、ネジ 5 本をはずす
⑧ パソコン本体を裏返して、ベースカバーを取りはずす
⑨ モデムボードにハーネスを取り付ける
⑩ タッチパッドの裏にモデムボードを取り付け、固定用のネジ 2 本でとめる
⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、手順⑥⑦ではずしたキーボードを取り付け、手順⑤ではずしたネジ 15 本でとめる
⑫ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずしたネジ 2 本でとめる
⑬ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ ハードディスクドライブカバーのネジ 2 本をはずし、ハードディスクカバーとハードディスクドライブを取りはずす
⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 15 本をすべて取りはずす
⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のネジ 2 ケ所をはずす
⑦ キーボードをはずし、ネジ 5 本をはずす
⑧ パソコン本体を裏返して、ベースカバーを取りはずす
PTT ラベルを確認することができます。
⑨ モデム固定用のネジ 2 本をはずし、モデムボードを取りはずす
⑩ モデムボードからケーブルを取りはずす
⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、手順⑥⑦ではずしたキーボードを取り付け、手順⑤ではずしたネジ 15 本でとめる
⑫ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずしたネジ 2 本でとめる
⑬ バッテリパックを取り付ける

2 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 ネットワーキング特性

互換製品	無線LANのIEEE802.11規格に準拠する製品（DSSS） Wi-Fi Alliance認定のWi-Fiロゴ取得製品	
ネットワークOS	Microsoft Windows® Networking	
ホストOS	NDIS5.1 Miniport Driver	
メディアアクセスプロトコル	CSMA/CA（Collision Avoidance）with Acknowledgment（ACK）	
データレート	High	11 Mb/s
	Medium	5.5 Mb/s
	Standard	2 Mb/s
	Low	1 Mb/s

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各国で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz（2400-2483.5 MHz）
変調方式	直接拡散方式 CCK（転送レート High、Medium） DQPSK（転送レート Standard） DBPSK（転送レート Low）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る" 障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LAN がサポートする2.4GHz 帯のチャネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各国で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」をご覧ください。

【 無線IEEE802.11 チャネルセット 】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	**2457** ＊1
11	2462

＊1：購入時に設定されているチャネルです。

無線LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。ステーションはチャネル 1 から 11 までを切り替えます。無線LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- " ピア･ツー･ピア " モードで無線LAN 接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

付録

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

> この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。

（1）　（2）（3）

2.4DS4
■■■

（4）

（1）2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
（2）DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
（3）4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
（4）■■■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間　／9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル／0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名 ： WM3B2100

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 03NYDA0041
03WYBA0036

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B)（無線LAN標準規格(版数 B)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™とWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth™、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

【 健康への影響 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prét à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
This device has been designed to operate with an antenna having a maximum gain of 4.8dB. Antenna having a higher gain is strictly prohibited per regulations of Industry Canada. The required antenna impedance is 50 ohms.
To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.
IC:248H-DPA3272W

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/ Belgique:	For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz). Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à I'extérieur de bâtiments, une licence de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France. Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure á suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.
For both antennas, the radiated output power of the Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.
The antenna(s) used for this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.
RF device shall not be co-located with any other transmitter.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

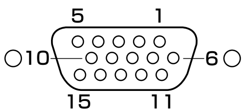
Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.
The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

3 各インタフェースの仕様

1 RGBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



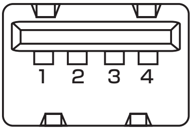
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

2 USBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	

コネクタ図

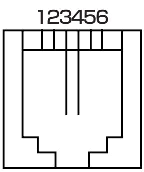


信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	

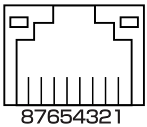
コネクタ図



信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

4 LANインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			
			

信号名：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 「7章 2 その他 - Q. パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

参照 省電力設定について「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : PORTÉGÉ R111
Model number : PPR11

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor port, USB port, and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PPR11 conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

認定番号
A02-0604JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2003 年 6 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

＊ 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

お願い

内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals.
If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
The IC registration number of the modem is shown below.
Canada: 1353A-L4INT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)
AT&G2 (1800 Hz guard tone)
AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
ATS0=0 (not auto answer)
ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

5 東芝 PC ダイヤルのご案内

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。
技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

問い合わせの際には「お客様登録番号」を伺っています。
本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様カード」またはインターネット経由で登録できます。

1 東芝 PC ダイヤル

ナビダイヤル
全国共通電話番号 **0570-00-3100**（サポート料無料）

※受付時間／9：00 ～ 19：00（年中無休）
システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。
なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com 上にてお知らせいたします。
［ 電話番号はまちがえないよう、確認してかけてください ］

電話は全国 6 箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これは全国 6 箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスを契約している場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになります。

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT 以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX（G3 規格）で入手することができます。詳しくは巻末を確認してください。
- 「東芝 PC テクノセンタ」（東京／大阪）では対面相談を受け付けています（技術相談／作業は有償）。詳しくは『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

円滑に対応するために、次ページの「トラブルチェックシート」でパソコンの使用環境について確認してから、東芝 PC ダイヤルに問い合わせてください。

② トラブルチェックシート

Q.1 使用しているパソコンの機種名は？（本書表紙右下に表記）
機種名：　　　　　　　　　　　　お客様登録番号：
保証書などで以下を確認してください。
（製造番号：　　　　　　、購入店：　　　　　、購入日：　　　　など）

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？
Windows XP など、使用しているシステムとアプリケーションは？
OS（システム名）：　　　　　　　　　　その他：

Q.3 どのような症状が起こりましたか？
症状：

Q.4 どのような操作をした後、症状が発生するようになりましたか？
操作内容：

Q.5 エラーメッセージは表示されましたか？
表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？
□ 一度発生したが、その後発生しない
□ 電源を切らないと発生するが、電源を切っても再起動すれば発生しない
□ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する　　□ その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？
□ ある一定の操作をすると発生する
□ どんな操作をしても発生する　　□ その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合
プロバイダ名：
使用モデム名：
使用回線：□ 内線発信アリ　□ マイライン契約アリ　□ ISDN
□ 携帯　□ DSL／ケーブル TV

Q.9 周辺機器に関する相談の場合
機器名（製品名）：　　　　　　　メーカー名：

オペレーティングシステムのバージョンや CPU の種類について東芝 PC ダイヤルから聞かれた場合は、「東芝 PC 診断ツール」の［基本情報の表示］ボタンをクリックして確認してください。

さくいん

記号

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

N

O

P

R

S

T

U

W

ア

イ

エ

オ

カ

ム

メ

モ

ヤ

ユ

リ

ロ

ワ